

## 和仏法律学校講義録

古賀, 廉造 / 秋山, 雅之介 / 勝本, 勘三郎

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

3

(号 / Number)

号外の1

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

56

(発行年 / Year)

1900-02-27

聖諭

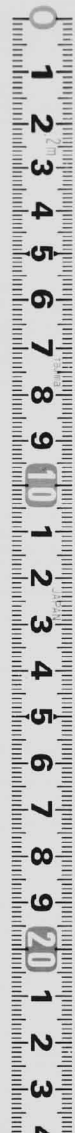
冊

每月紙回

明治三十二年  
第三部号外  
自第一号  
至第六号

欠一册  
第四号

現在册数五册



論(自三〇号) 法部省 官製 重訂

論(自五〇号) 法部省 官製 重訂

法(自一八号) 法部省 官製 重訂

大南

張

# 和佛清律學精 講義錄 第壹卷

每月貳回

號外之壹

目次

刑法總論(自三八頁至四〇頁) 法律學士古賀廉造

刑法各論(自四七頁至五〇頁) 法律學士藤本勘三

戰時國際公法(自一七頁至一八頁) 法律學士秋山雅之介

●三十二年度講義錄號外二付テ

三十二年度講義錄號外ハ一、三、四ノ三月月ニ涉リ  
發行ノ豫定ナルヲ以テ右號外ノ購讀者ハ來ル四月  
迄ノ月謝ヲ前納セララルハ隨意ナレトモ其以上ハ  
追テ報道スル迄納付方見合スヘシ

尙右號外ハ當初取纏メ發行ノ豫定ナリシモ後俄ニ  
分割シテ發行スルコトト爲リタルニ由リ印刷非常  
ニ幅濶シ爲メニ本月ハ豫定ノ發行期日ニ後レタル  
モ來三月ハ以後ハ成ルヘタ豫定期日ニ發行スヘシ  
ト雖モ多少ノ遅延ハ免レサルヲ以テ豫メ諒セヨ

●三十三年度講義錄附錄ニ付テ

本校ハ三十二年度ノ講義錄ヲ無事ニ完結スルト同  
時ニ更ニ三十三年度ノ講義錄ヲ發行スルコト別欄  
廣告ノ如シ而シテ當講義錄ノ附錄トシテ掲載スル  
科目ハ其附錄ノミノ購讀者許サスト雖モ三十二年  
度ノ校外生諸子ニ限リ特ニ其各部ニ屬スル附錄ノ  
ミノ購讀者許シ聊カ以テ其舊誼ニ酬ヒントス即チ  
全部ノ校外生ハ全部又ハ一部ノ附錄ヲ一部ノ校外  
生ハ一部ノミノ附錄ヲ購讀者ルコトヲ得ニ部三部  
亦同シ

右附錄志望ノ者ハ此際至急ニ申込ムヘシ但シ豫約  
金一回ヲ要ス

●新講義錄附錄購讀者ニ告ク

三十三年度新講義錄附錄ノミノ購讀者ニ對シテハ  
附錄掲載ノ都度之ヲ配付セス一定ノ紙數(凡ソ八  
十頁)ニ達シタル上纏メテ之ヲ配付ス

右ニ付キ若シ掲載ノ都度配付ヲ望ム者ハ特ニ郵送  
料ヲ送付スヘシ

090  
1899  
12-1

七三條ニ於テ先ニ重罪、輕罪、違警罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ云トアリ然ラハ  
則チ再犯加重ヲ爲スニハ必ス先ニ一度重罪又ハ輕罪、違警罪ノ刑ニ處セラレタ  
ル者ナラサル可カラス蓋シテ再犯加重ヲ爲スハ初犯ニ科シタル刑罰ヲ恐レサル  
カ爲メナルカ故ニ初犯ノ裁判ハ必ス刑ノ宣告ナルコトヲ要スルハ自然ノ道理  
ナリ夫レ再犯加重ヲ爲スニハ初犯ノ裁判ハ必ス刑ノ宣告ナラサル可カラサル  
カ故ニ十六年未滿ノ者是非ノ辨別ナクシテ罪ヲ犯シ懲治場留置ノ言渡ヲ受ケ  
タル者ハ後ニ至リテ再ヒ罪ヲ犯スコトアルモ之ニ適用スルニ再犯加重ノ規則  
ヲ以テス可キモノニアラサルナリ蓋シ懲治場留置ハ刑ノ言渡ニアラスシテ唯  
惡少年ヲ感化スルノ目的ヲ以テ之ヲ行フニ過キサルモノナレハ裁判上ノ行政  
處分ナリト謂フヲ得可シ夫レ舊法ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ新法ニ  
於テ別ニ之ヲ再犯者ト爲ス可シトノ規定ヲ設ケサルトキハ舊法時代ノ確定判  
決ハ新法ノ爲メニハ再犯ノ條件ヲ爲スモノニ非サルナリ蓋シ舊法ニ於テ罰  
ル所ノモノト新法ニ於テ罰スル所ノモノハ其主義同一ナラス即チ新法ヲ設ケ  
タル所以ノモノハ舊法ノ頼ム可カラサル所ノモノアルヲ以テナリ其頼ム可カ

●三十二年度講義錄號外ニ付テ

三十二年度講義錄號外ハ二二三四ノ三月ニ涉リ  
發行ノ豫定ナルヲ以テ右號外ノ購讀者ハ泰ル四月  
迄ノ月滿ヲ前納セラルルハ隨意ナレトモ其以上ハ  
追テ報達スル迄納付方見合スヘシ

尙右號外ハ當初取纏メ發行ノ豫定ナリシモ後俄ニ  
分刷シテ發行スルコトト爲リタルニ由リ印刷非常  
ニ幅濶シ爲メニ本月ハ豫定ノ發行期日ニ後レタル  
モ泰三月ハ以後ハ成ルヘク豫定期日ニ發行スヘシ  
ト雖モ多少ノ遅延ハ免レサルヲ以テ豫メ諒セヨ

●三十三年度講義錄附錄ニ付テ

本校ハ三十二年度ノ講義錄ヲ無事ニ完結スルト同  
時ニ更ニ三十三年度ノ講義錄ヲ發行スルコト別欄  
廣告ノ如シ而シテ當講義錄ノ附錄トシテ掲載スル  
科目ハ其附錄ノミノ購讀者許アスト雖モ三十二年  
度ノ校外生諸子ニ限リ特ニ其各部ニ屬スル附錄ノ  
ミノ購讀者許ヲ期カ以テ其書取ニ關セントス即チ  
全部ノ校外生ハ全部又ハ一部ノ附錄ヲ一部ノ校外  
生ハ一部ノミノ附錄ヲ購讀者ナルコトヲ得ニ部三部  
亦同シ  
右附錄志望ノ者ハ此際至急ニ申込ムヘシ但シ豫約  
金一圓ヲ要ス

●新講義錄附錄購讀者ニ告ク

三十三年度新講義錄附錄ノミノ購讀者ニ對シテハ  
附錄掲載ノ都度之ヲ配付セテ一定ノ紙數(凡ソ八  
十頁)ニ達シタル上種メテ之ヲ配付ス  
右ニ付キ若シ掲載ノ都度配付ヲ望ム者ハ特ニ郵送  
料ヲ送付スヘシ

090  
1899  
3-2-1

七三條ニ於テ先ニ重罪輕罪違警罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ云トアリ然ラハ  
則チ再犯加重ヲ爲スニハ必ス先ニ一度重罪又ハ輕罪違警罪ノ刑ニ處セラレタ  
ル者ナラサル可カラス蓋シ再犯加重ヲ爲スハ初犯ニ科シタル刑罰ヲ恐レサル  
カ爲メナルカ故ニ初犯ノ裁判ハ必ス刑ノ宣告ナルコトヲ要スルハ自然ノ道理  
ナリ夫レ再犯加重ヲ爲スニハ初犯ノ裁判ハ必ス刑ノ宣告ナラサル可カラサル  
カ故ニ十六年未滿ノ者是非ノ辨別チクシテ罪ヲ犯シ懲治場留置ノ言渡ヲ受ケ  
タル者ハ後ニ至リテ再ヒ罪ヲ犯スコトアルモ之ニ適用スルニ再犯加重ノ規則  
ヲ以テス可キモノニアラサルナリ蓋シ懲治場留置ハ刑ノ言渡ニアラスシテ唯  
惡少年ヲ感化スルノ目的ヲ以テ之ヲ行フニ過キサルモノナレハ裁判上ノ行政  
處分ナリト謂フヲ得可シ夫レ舊法ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ新法ニ  
於テ別ニ之ヲ再犯者ト爲ス可シトノ規定ヲ設ケサルトキハ舊法時代ノ確定判  
決ハ新法ノ爲メニハ再犯ノ條件ヲ爲スモノニ非サルナリ蓋シ舊法ニ於テ罰ス  
ル所ノモノト新法ニ於テ罰スル所ノモノハ其主義同一ナラス即チ新法ヲ設ケ  
タル所以ノモノハ舊法ノ額ム可カラサル所ノモノアルヲ以テナリ其額ム可カ

ラサルノ舊法ニ於テ罰シタルヲ以テ再犯加重ノ理由ト爲スハ是レ法律ヲ改正  
セタルノ旨趣ニ反スルモノト言ハサル可カラサルナリ

(三) 其裁判ハ必ス日本裁判所ニ於テ之ヲ爲シタルモノナルコトヲ要ス

外國裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受クルコトアリト雖モ日本ニ於テハ是レ一個  
ノ事實ニ過キスシテ日本ノ法律ニ所謂確定判決ノ效力ヲ有スルモノニ非サ  
レハ外國ニ於テ確定判決ヲ經タル後再ヒ罪ヲ犯スコトアルモ我刑法ノ再犯  
加重ノ例ヲ適用ス可キモノニ非サルナリ外國裁判所ノ裁判ハ唯其領土内ニ  
於テ裁判ノ效力ヲ有スルニ過キスシテ外國ニ對シテハ何等ノ效力ナキモノナ  
リ

然レトモ其裁判所ニシテ日本裁判所タラシカ司法裁判所ト特別裁判所トハ再  
犯加重ノ適用上之ヲ區別スルノ必要ナキナリ司法裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受  
ケタルトキハ再犯加重ノ適用ニ付テ毫無困難ヲ生スルコトナシト雖モ軍事裁  
判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テハ其言渡ハ常ニ再犯加重ノ條件ト  
爲ル可キモノナリト謂フヲ得ス宜シク場合ヲ區別シテ之ヲ論セサル可カラス

若レ初犯ノ非常律ニ從テ處斷シタルトキハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得可シト  
雖モ之ニ反シ軍律ヲ以テ處斷シタルトキハ再犯加重ノ條件ト爲ヌヲ得サルナ  
リ第九十六條ニ曰ク「陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シ  
タル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタルモノニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコ  
トヲ得ヌ」ト即チ「犯人ノ身分ニ因テ軍事裁判所ニ於テ犯罪ノ管轄權ヲ有シ  
而シテ普通刑法ヲ適用セタルトキハ再犯加重ノ原因ト爲ル可シ」(第二)陸海軍刑  
法及ヒ普通刑法ニ於テ共ニ同一ノ規定ヲ設ケ其何レノ刑法ヲ適用スルモ同一  
ナル場合ニ於テモ若シ軍律ニ從フテ處斷シタルトキハ再犯ノ條件ト爲ヌヲ得  
ヌ之ニ反シ常律ニ從フテ處斷シタルトキハ再犯加重ノ條件ト爲ルヲ得(第三)軍  
ニ陸海軍刑法ニ照ラシテ處斷シタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ再犯加重ヲ  
以テ論スルコトヲ得サルナリ(第四)陸海軍刑法ノ犯罪ト普通刑法ノ犯罪ト數罪  
俱發ヲ爲シ其重キニ從テ處斷シタルトキハ宜シク其重キ罪ノ何レノ法律ニ屬  
スルヤヲ見テ而シテ再犯加重ノ條件ヲ定ムルナリ即チ重キ罪ハ陸海軍刑法ノ  
犯罪ナルトキハ是レ軍律ニ依テ處斷シタルモノナルヲ以テ再犯加重ノ條件ト

爲スヲ得ス之ニ反シ重キ罪ハ普通刑法ノ犯罪ニ屬スルトキハ再犯加重ノ條件ト爲スヲ得

非軍人ト軍人ト共謀シテ陸海軍ノ刑法ニ觸ルル可キ犯罪ヲ企テタリ此場合ニ於テ原則上軍人ハ軍事裁判所ニ於テ之ヲ管轄シ非軍人ハ司法裁判所ニ於テ之ヲ管轄ス然レトモ非軍人ノ罪ハ司法刑法ノ違反ニ非スシテ陸海軍刑法ノ違反ニ係ルヲ以テ司法裁判所カ之ヲ罰スルニ付テ普通刑法ヲ以テスルヲ得ス必ス陸海軍刑法ヲ以テセサル可カラズ如此場合ニ於テ非軍人カ後ニ再ヒ罪ヲ犯ストキハ再犯加重ヲ以テ論セラルヘキ乎曰ク司法裁判所ニ於テ適用スル所ノ法律ハ普通刑法ニ非スシテ陸海軍刑法ナリト雖モ刑法ハ此場合ニ於テ再犯ヲ以テ論スルコトヲ禁シタルモノニ非サルナリ第九十六條ハ陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ初犯ノ罪常律ニ處斷シタルモノニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ストセリ是レ明カニ陸海軍裁判所ニ於テ犯罪ノ管轄ヲ爲シタル場合ニ於テハ陸海軍刑法上ノ處斷ハ再犯ノ條件ヲ爲スモノニ非スト云フニ在リ司法裁判所カ陸海軍刑法ヲ適用スル場合

ヲ云フニ非サルヲ以テ軍事裁判所ニ於テ軍律ヲ以テ處斷シタルトキハ本條ハ之ヲ以テ再犯加重ノ條件ト爲スコトヲ許サズ然レトモ司法裁判所ニ於テ軍律ヲ適用シタル場合ハ本條ノ規定以外ナルヲ以テ即チ刑法ノ禁制以外ニ在リトス而シテ再犯加重ハ一般ノ場合ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ原則トシ之ヲ爲ササルヲ以テ例外ト爲ス而シテ司法裁判所カ軍律ヲ適用スルヲ以テ之カ例外ト爲シタル規定ヲ設ケサル以上ハ其確定判決ニ付テ再犯加重ノ條件タラサルノ理由ナキヤ多辯ヲ待テ而シテ後ニ之ヲ知ラサルナリ

第二條件 新ナル犯罪アルコトヲ要ス 新ナル犯罪ハ重罪輕罪、違警罪ニ通シテ之ヲ謂フモノナリ即チ一旦確定裁判ヲ受ケタルモノ再ヒ重罪輕罪又ハ違警罪ヲ犯ストキハ再犯加重ノ制裁ヲ受ケサル可カラズ然レトモ刑法ハ重罪輕罪ノ再犯ニ付テハ別ニ何等ノ制限ヲ爲サズト雖モ違警罪ノ再犯ニ付テハ時ト場所トニ付テ之カ制限ヲ爲セリ重罪、輕罪ノ再犯ヲ規定シタル第九十條及ヒ第九十二條ニ依レハ重罪、輕罪ニ付テ再犯加重ヲ爲ス可キ場合三アリ(一)先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ヲ犯シタルトキ(二)先ニ重罪ノ刑ニ處

セラレタル者再犯輕罪ヲ犯シタルトキ(二)先ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ヲ犯シタルトキ以上三個ノ場合ニ於テハ初犯ノ場合ニ科ス可キ本刑ニ一等ヲ加ヘタル刑ヲ以テ之ヲ罰スルコトト爲セリ然レトモ初犯輕罪ニシテ再犯重罪ナルトキハ再犯加重ヲ爲スコトヲ許サス蓋シ刑法ノ旨趣輕罪ノ刑ヲ受ケタル者再ヒ輕罪ヲ犯スニ至テハ其刑罰ヲ恐レサル者タルコトヲ知ルニ足レリト雖モ其罪重罪ナルトキハ則チ輕罪初犯ノ刑ニ加重シタルモノヨリ一層重キ刑ヲ科スルヲ以テ別ニ加重ヲ爲スヲ要セスト云フニ在リ然レトモ條理上ヨリ觀察スルトキハ刑法ノ規定少シク抵觸ヲ免レサル所アリ即チ刑法ハ先ニ重罪ヲ犯シ再犯重罪ナルトキ又先ニ重罪輕罪ヲ犯シ再犯輕罪ナル場合ニ於テ加重ノ制裁ヲ爲スヲ以テ是レ刑法ハ犯人ニ對シテ初犯ヨリ輕キ若クハ等シキ罪ハ之ヲ犯スコトナキヲ嚴命シ而シテ初犯ヨリ重キ罪ハ之ヲ犯スコトヲ許シタルニ異ナラス之ヲ酷論スレハ刑法ハ初犯ヨリ輕キ若クハ等シキ再犯ハ之ヲ犯スコトヲ禁シ而シテ初犯ヨリ重キ再犯ハ之ヲ獎勵スルニ非サレハ之ヲ默過シタルモノナリト謂フヲ得可シ刑法ノ規定豈ニ夫レ條理ニ適合シタリト

謂フヲ得ンヤ

違警罪ノ再犯ハ第九十三條ニ於テ之ヲ規定ス曰ク先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ係ルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年內再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄地内ニ於テ犯シタルトキニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得スト本條ニ由テ之ヲ觀レハ違警罪ノ再犯ニハ二個ノ制限アルヲ見ル即チ(一)再犯ハ初犯ノ確定判決後一年內ニ於テセサル可カラス(二)再犯ハ同一違警罪裁判所ノ管轄内ニ於テセサル可カラス蓋シ違警罪ハ其性質重要ノ犯罪ニ非サルカ故ニ無制限ニ之ヲ罰スルノ必要ナク亦違警罪ノ罪ハ各地方ニ於テ異ナル所ノモノナルカ故ニ一度或違警罪裁判所ニ於テ違警罪ノ確定裁判ヲ受クルモ亦他ノ違警罪裁判所ノ管轄内ニ於テ違警罪ヲ犯スコトナシトセス他ノ違警罪裁判所管轄内ニ於テハ違警罪ノ事項ニ屬スルモノタルコトヲ知ラスシテ過テ之ヲ犯スニ至ルコトアルヲ以テナリ

第一注意 再犯加重ヲ爲スニ付テハ何レノ場合ニ於テモ左ノ制限ヲ忘ル可カラス第一制限重罪ノ刑ヲ加重シテ死刑ニ入ルトキハ之ヲ加重スルコトヲ得ス



(第六六條但書)第二制限(輕罪ノ刑ヲ加重シテ重罪ノ刑ニ入ルコトヲ得ス)(第七〇條(第三制限)違警罪ノ刑ヲ加重シテ輕罪ニ入ルコトヲ得)第七〇條第二項

第二注意 再犯加重ハ總テノ犯罪共通スルヲ以テ原則トスト雖モ左ノ例外アルコトヲ知ラサル可カラズ(一)囚徒逃走罪(二)附加刑ノ執行ヲ免レタル罪ノ場合はナリ刑法第四百十三條ニ曰ク(既決ノ囚徒逃走ノ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論セス但刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス)第五百十六條ニ曰ク(前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタルトキニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得)ト凡ソ此種類ノ犯罪ハ第一罪ヲ犯シタル後ニ非サレハ之ヲ犯ス能ハサル所ノモノナレハ第一罪ハ則チ第二罪ノ成立要件ニ外ナラス之ヲ換言スレハ第二罪ヲ構成スルニハ初メ第一罪ヲ犯シタルコトヲ必要ト爲スモノニシテ第一罪ナケレハ則チ到底第二罪ヲ構成スル能ハサル所ノモノナリ既ニ第一罪ヲ以テ第二罪ノ成立要件トスレハ他ノ一方ニ於テ加重要件ト爲スヲ得サルヤ明白ナリ是レ即チ刑法ハ此二個ノ場合ニ於テハ再犯加重ヲ爲ササルヲ以テ原

則ト爲シ一般ノ再犯加重ノ例外ト爲シタル所以ナリ然レトモ刑法ハ此例外ニ付キ直チニ一條件ヲ設ケタリ即チ刑期限内再ヒ逃走シ又ハ再ヒ附加刑ヲ免レタルトキハ刑法ノ本則ニ因リ再犯加重ノ規則ヲ適用スルナリ刑期限内再ヒ逃走ストノ意義ニ付テハ世人屢々其解釋ヲ誤ルコトアリ今例ヲ擧ケテ解釋ノ誤謬ヲ明カニセントス例ハ明治三十一年一月罪ヲ犯シテ一年ノ處刑ヲ受ケタリ其刑ノ執行中三十一年三月ニ逃走シテ又其罪ノ處分ヲ受ケタリ而シテ同年五月再ヒ逃走セリ是レ即チ刑ノ執行中二回ノ逃走ヲ爲シタルヲ以テ再犯加重ヲ爲スハ毫モ疑ヲ容レサルナリ然ルニ此犯人ハ三十一年一月ノ刑期執行中三月ニ一回逃走シテ其逃走罪ノ處分ヲ受ケテ遂ニ刑ノ執行ヲ完ウシタリ明治三十二年一月ニ至リテ再ヒ罪ヲ犯シ又其處分ヲ受ケ其刑ノ執行中同年五月逃走ヲ爲セリ此ノ逃走罪ニ付テ世人屢々誤謬ノ解釋ヲ爲スヲ見ル即チ三十二年五月ノ逃走罪ハ即チ三十一年三月ノ逃走罪ト何等ノ關係ヲ有スルモノニ非ス即チ三十一年三月ノ逃走罪ヲ犯スニ非サレハ三十二年五月ノ逃走罪ヲ犯スヲ得スト云フモノニ非ス三十二年五月ノ逃走罪ハ三十一年三月ノ逃走罪ノ結果

罪ト云フ可キモノニ非サルナリ故ニ此二個ノ逃走罪ハ各獨立ノ逃走罪ナルヲ以テ三十二年五月ノ逃走罪ハ三十一年三月ノ逃走罪ニ對シテ再犯加重ヲ爲スモノナリ又三十一年一月ノ犯罪ニ對シテモ亦再犯加重ヲ爲スモノナリト然レトモ此解釋大ニ刑法ノ精神ヲ誤ルモノナリ刑法第四百四十三條ニ於テ其刑期限内再犯シタル者ハ再犯ヲ以テ論ストアリ又第五百五十六條ニハ其刑期限内再犯シタルニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ストアリ然ラハ即チ刑法ニ所謂其刑期限内トハ犯人カ確定判決ノ執行中又ハ逃走罪ノ刑ノ執行中再犯シタル場合ニ於テ始メテ再犯加重ヲ爲スヲ得ルト云フニ在リ故ニ第一罪ニ付テ刑ノ執行ヲ終リタル後更ニ第二罪ヲ犯シ逃走ヲ爲スカ如キハ是レ所謂其刑期限内ト謂フ可カラサルヲ以テ刑法ノ明文上再犯加重ヲ爲ス可キモノニ非サレヤ疑ヲ容レサル所ナリ

第三注意 再犯加重ヲ爲スニ付テハ初犯ノ罪質ヲ以テ之カ根據ト爲サスシテ現ニ言渡シタル刑ヲ以テ其根據ト爲ス第九十一條第九十二條及ヒ第九十三條ニ於テ先ニ重罪ノ刑ニ處セラレ又ハ先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレ又ハ先ニ違

警罪ノ刑ニ處セラレ云々トアリ然ラハ則チ犯罪ノ性質ハ重罪ナルモ現ニ科シタル刑輕罪ノ刑ナルトキハ輕罪ナリト謂フヲ得可ク犯罪ノ性質ハ輕罪ナルモ既ニ科シタル所ノ刑違警罪ノ刑ナルトキハ違警罪ナリト謂フヲ得可ク故ニ法律上又ハ裁判上ノ減輕ニ因テ重罪ノ刑ヲ減輕シテ輕罪トシ輕罪ノ刑ヲ減輕シテ違警罪ナリトシタルトキハ其現ニ科シタル所ノ刑ニ因テ以テ再犯ノ條件ト爲ス可キナリ

第四注意 刑期限内一度罪ヲ犯スニ因リ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキハ何レノ刑ノ執行ヲ先ニス可キ乎第九十五條ハ之ニ答ヘテ曰ク刑期限内再犯スル者因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサルヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサルヲ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徵收ス下例ヘハ先ニ重禁錮ノ刑ニ處セラレ其刑ノ執行中輕禁錮ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタルトキハ同時ニ重禁錮ト輕禁錮ノ二刑ノ並立アルヲ見ル此場合ニ於テハ先ツ重禁錮ヲ執行シ後ニ輕禁錮ヲ執行スルナリ若シ先ニ輕禁錮ノ

刑ニ處セラレタル者其刑ノ執行中更ニ重禁錮ニ該ル可キ罪ヲ犯シタルトキハ前例ト等ク重禁錮ノ執行ヲ先キニ輕禁錮ノ刑ヲ執行ヲ後ニスルナリ若シ又先キニ犯シタル罪モ重禁錮ニシテ後ニ犯シタル罪モ亦重禁錮ナルトキハ其刑期ノ長キモノヲ先キニシ其刑期ノ短キモノヲ後ニス又先キニ輕禁錮ノ刑ニ係リ其執行中又更ニ輕禁錮ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタルトキモ亦同シ

第五注意 再犯加重ト減輕ト同時ニ到着セタルトキハ即チ如何ナル方法ニ依テ以テ加重ト減輕ノ抵觸ヲ免ルルコトヲ得ル乎第九十九條ハ之カ規定ヲ爲シテ曰ク犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減セタル者ヲ以テ本刑ト爲ス(一)再犯加重(二)有恕減輕(三)自首減輕(四)酌量減輕ト是レ即チ第六章加減順序ノ規定ニシテ其適用頗ル困難ナル所ノモノナリ余ハ本條ニ付キ一言ノ説明ヲ爲シテ以テ世ノ減ヲ解カント欲スルナリ例ヘハ先キニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再ヒ他ノ重罪ヲ犯セタリ然ルニ

此者有恕減輕ノ理由アルヲ以テ多少ノ減等ヲ受クルノ權利アリ此場合ニ於テ如何ナル方法ニ因テ加重ト減輕ノ抵觸ヲ調停スルコトヲ得ル乎第九十九條ノ規則ニ於テハ最初ニ加重ヲ爲シテ而シテ最後ニ減輕ヲ爲スノ順序ヲ定ム故ニ再犯ノ性質重罪ナルトキハ直チニ其本刑ヲ加重シテ後減輕スルヲ以テ現ニ科シタル刑ハ輕罪ノ刑ナリト雖モ是レ輕罪ノ再犯加重ニ非スヤテ重罪ノ再犯加重ナリ之ヲ要スルニ第九十一條第九十二條及ヒ第九十三條ニ所謂重罪輕罪違警罪ニ該ルトキ云云ノ重罪輕罪違警罪ハ是レ犯罪法ノ性質ヲ以テ定メタル罪タルニ外ナラザルナリ

### 第二款 再犯證明ノ方法

再犯ノ恐ル可ク又再犯人ノ惡ム可キハ世人ノ既ニ認ムル所ナリ若シ現行刑法ヲ改正シテ之ニ代アルニ新刑法ヲ以テスレハ再犯加重ノ方法一變シテ而シテ犯人ノ責任大ニ重クナルヲ以テ犯人ハ勉メテ再犯者タルノ名稱ヲ免レンコトヲ考究シ或ハ前科ヲ匿スアリ或ハ偽名ヲ稱スルアリテ遂ニ刑法ノ規則ヲシテ徒法ニ屬セシムルノ弊害ヲ生スルコトアル可シ蓋シ再犯加重ノ規則益々嚴

重ナレハ即チ再犯ヲ免ルルノ方法モ亦益々精密ヲ加フルニ至ル可シ然ラハ則チ再犯加重ノ規則ヲ嚴ニスルニ及ヒテハ必ス再犯ヲ免ルルコトヲ防クノ方法ヲ考究ス可キノ必要ヲ生スルナリ從來我國ノ刑法ニ於テハ再犯加重ノ刑最モ寛大ナルニ拘ハラヌ尙ホ再犯ヲ免ルル者多キヲ見ル今我國ニ於テ採用スル所ノ再犯ノ證明ヲ觀ルニ其方法ニアリ(一)ハ即チ既決犯罪表ナリ確定裁判ヲ經タルトキハ其判決ニ因テ以テ既決犯罪表ナルモノヲ作リ其判決ヲ言渡シタル裁判所ニ於テ之ヲ保管スルナリ故ニ再犯人ニシテ能ク前科ヲ自白セシムルモノナラシメハ前科ヲ科シタル裁判所ニ照會シテ既決犯罪表ヲ求ムルトキハ即チ再犯ノ證明至テ容易ナリ然レトモ犯人ノ逮捕ヨリ判決ノ言渡マテ長時間ヲ要スル場合ニ於テハ一々各裁判所ニ照會シテ前科表ヲ求ムルノ困難ヲ見スト雖モ輕微ノ事件ニシテ或ハ速決ニ付シ或ハ逮捕ノ日ヨリ二三日ヲ出テスシテ裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ到底遠隔ノ裁判所ニ照會シテ前科表ヲ求ムルノ逸アル可カラス又前科表ノ無キ故ヲ以テ漫リニ判決ヲ延期スルノ理由ナキヲ以テ裁判所ハ屢々前科ナキ者トシテ判決ヲ言渡スコト多シ是レ現今ノ前科表ハ

唯其裁判所ニ於テ多少ノ證明方法トスルニ足ルヘシト雖モ他ノ裁判所ニ對シテハ何等ノ用ヲモ爲ササル場合多シ(二)ハ即チ索引ナリ索引トハ確定判決ニ因テ以テ各犯人ノ犯罪表ヲ作リ之ヲ犯人ノ姓名ノいろは順ニ配置シテ犯人新ニ逮捕セラレル毎ニ其姓名ニ付テ以テ之ヲ其表ニ照シ其表中ニ同姓名ヲ見出ストキハ則チ其犯人ハ再犯者ナルコトヲ知ルノ方法ナリ此既決表ハ凡ソ三寸四方許ノ厚キ紙札ヲ以テ之ヲ作り之ニ犯人ノ氏名年齢人相特徵刑名言渡ノ年月日管轄裁判所ヲ記載シ之ヲ犯人ノ氏名ノいろは順ニ依テ一定ノ場所ニ配置シ再犯者ヲ探ル毎ニ其札ノ端ニ下クアル紐ヲ引キテ之ヲ引キ出スカ故ニ或ハ此既決犯罪表ニ付スルニ索引ノ名ヲ以テシタルナラン然レトモ余ハ未ダ索引ノ名稱ノ由テ出ツル原因ヲ研究セサルカ故ニ深ク之ヲ知ラサルナリ此索引ハ再犯ヲ證明スルニ付テハ極メテ至便ノ方法ナリト雖モ是レ唯警視廳ニ於テ此法ヲ用フルニ過キサカカ故ニ東京地方裁判所管内又ハ東京附近ノ管内ノ前科ニ付テハ索引ノ力ニ因テ以テ能ク再犯ノ證明ヲ爲スヲ得ト雖モ少シク東京ヲ距ル遠キ裁判所ノ前科ノ證明ニ至テハ到底此索引ノ力ニ因ルヲ得ス且索引モ犯

人ノ姓名ニ偽リナキトキニ於テハ確實ノ證明方法タルヲ得可キモ犯人カ偽名ヲ稱スルニ及ンテハ到底索引モ亦其用ヲ爲スモノニ非サルナリ要スルニ既決犯罪表並ニ索引ハ犯人カ其姓名ヲ偽ラサルヲ以テ必要條件ト爲スモノナレハ犯人ノ如何ニ因テ以テ或ハ前科ノ證明ノ用ヲ爲シ或ハ前科ノ證明ノ用ヲ爲ササルナリ若シ犯人偽名ヲ稱スルニ至テハ到底此二者ノ方法ヲ以テ前科ノ證明ヲ爲スコトハ全ク能クス可カラサルノ事業ニ屬ス四五年前ヨリ司法省ニ於テ犯罪人人名辭書ヲ作レリ此辭書ノ目的ハ全國ノ既決犯罪表ヲ全國ノ裁判所ニ共通セシムルニ在リ其方法ハ即チ全國ノ裁判所ヨリ一定ノ方式ニ從ヒタル確定判決ノ表ヲ徵收シ犯人ノ姓名ノいろは順ニ從フテ毎年一冊ノ辭書ニ編製シ毎年之ヲ全國ノ各裁判所ニ分配スルナリ故ニ當年ノ前科ニ付テハ全國ノ各裁判所之ヲ知ルコト能ハスト雖モ前年以上ノ前科ニ付テハ各裁判所ハ此辭書ニ依テ以テ犯人ノ姓名ヲ搜索スレハ忽チニシテ前科ノ證明ヲ爲スコトヲ得ルナリ此辭書ハ全國ノ既決犯罪表ヲ一括シテ之ヲ全國ノ各裁判所ニ分配シタルモノニ異ナラサルナリ唯此辭書編纂以後ノ前科ニ付テ之カ證明ヲ得ル能ハサル

ハ即チ此辭書ノ弊害ナリ又犯人カ其姓名ヲ偽ラサル場合ニ非サレハ辭書ノ目的モ亦之ヲ達スルコト能ハサルヲ以テ其弊害ハ則チ索引又ハ從前ノ既決犯罪表ニ同シキナリ若シ夫レ犯人其姓名ヲ偽リ其前科ヲ自白セサル場合ニ於テ猶ホ能ク其犯人ノ前科ヲ證明スルヲ得ルノ方法ニ至テハ今日未タ之カ發明ヲ爲シタル者アルヲ聞カス然レトモ刑法ハ改正セラレ再犯加重ノ規則ハ嚴酷ナルニ至テハ爾來犯人ノ自白ハ之ヲ望ム可カラサルヲ以テ犯人ノ自白ニ依ラスマテ其前科ヲ證明スルノ方法ヲ考究スルハ則チ刑法改正ニ伴フ所ノ急務ナリトス余前年佛國ニ遊ヒ巴里ノ警視廳ニ於テ新ニ發明シタル前科證明ノ方法ヲ實行スルヲ見タリ其方法ハ則チ犯人ノ自白ニ依ラスマテ而シテ能ク前科ノ證明ヲ得ルニ付キ最モ確實ナル所ノモノナリ今其方法ノ大要ヲ掲ケテ以テ之ヲ讀者ニ示サントス讀者又此方法ニ付キ更ニ一步ヲ進ミタル所ノ新案ヲ考出スルニ至ラハ我國ノ爲メニ著シキ利益ト爲ル可シ

千八百八十五年十一月二十二日羅馬ノ美術館ニ於テ開キタル萬國監獄協會ニ於テ佛國政府派出員アルフォンスペルチヨン氏ノ爲シタル演説ノ大要ヲ記載

ス可シ  
骨格特徴

(一) 本問題ノ概論 余輩ハ虚偽ノ身分證書ヲ有スル再犯人ノ認識ヲ爲スニ付キ一種ノ方法ヲ有スルモナリ  
其方法ハ骨格ノ特徴ヲ根據トスルニ在リ即チ検査ニ係ル被告人ノ骨格上ニ付テ必要ナル部分身丈中指足ノ長サ頭ノ長サ及ヒ廣サ等ヲ試験スルノ方法ナリ  
然レトモ此方法ノ詳細ヲ説クニ先チテ人ノ體格ノ同一ヲ知ルノ問題ニ付テ一言スルノ必要アリ  
犯人カ新ナル罪ヲ犯シ裁判所ニ出ツルトキハ必ス先ツ其實名ヲ秘シ初犯人ノ姓名ヲ借ルコトヲ勉ムル者多シ如此ニシテ能ク再犯ニ科スル所ノ加重刑ヲ免ル加重刑ハ各國ニ於テ多少異ナル所アリト雖モ或ハ法律ニ於テ一定ノ重刑ヲ命スルコトアリ或ハ長期短期ノ範圍ヲ設ケテ裁判官ヲシテ適當ナル程度ノ刑ヲ科セシムルコトアリ殊ニ慣行犯ノ多數ハ他ノ犯罪又ハ缺席裁判又ハ徵兵令違

反ニ付テ捜査ノ目的タル者ナリ之ヲ換言スレハ慣行犯ノ多數ハ其前ニ犯シタル犯罪ニ付テ捜査セララルモノナリト自信スルノ道理ヲ有スルモノニ非サルハナシ  
如此有様ニテ被告ハ數月間其實實ノ氏名ヲ自白スルコトヲ爲サズニテ遂ニ他ノ犯罪ノ訴追ヲ免ルルヲ計ル者其數幾何ナルヲ知ラス  
身分帳簿ニ記載シタル氏名ノ現在ハ其氏名ノ實際現存スルコトヲ確實ニスルニ足ルト雖モ其氏名ノ者ハ果シテ逮捕セラレタル人ノ氏名ニ適合スルヤ否ヤヲ證明スルコト能ハサルナリ  
犯人中ニハ互ニ其姓名ヲ交換スルヲ忘ラサルノミナラス時トシテハ名譽アル人ノ名稱ヲ盜ムコトアルアリ余ハ一例ヲ知ル再犯人カ新ニ逮捕セララルニ當リ其以前ニ其犯人ノ爲メニ窃盜ノ害ニ遭フタル人ノ氏名ヲ詐稱スルヲ憚ラザル者アリ蓋シ此犯人ハ被害者カ認底ニ於テ證言セシ際能ク其氏名ヲ記憶セシ者ナリ  
外國ニ於テ逮捕セラレ又ハ外國人ノ身分ヲ詐稱スル國際犯人ハ如此詐術ヲ用

フルニ及ハスシテ容易ニ再犯人ノ身分ヲ蔽フコトヲ得ルナリ凡ソ國際犯人ノ姓名ハ其稱スル所ノモノヲ以テ必然正當ナリト認メラレ他ニ其名稱ヲ調査スルノ方法ヲ有セサルナリ如此場合ニ於テハ各國間既決犯罪表ノ交換ハ顯著ノ進歩ヲ爲スニ相違ナシト雖モ然レトモ是レ未タ完全ノ方法ト謂フヲ得ス若シ夫レ犯罪ノ營業者ニシテハ常ニ僞名ヲ稱スルノ注意ヲ爲スヲ以テ既決犯罪表ニテハ到底其犯罪ヲ發見スル能ハサル可シ余ハ固ヨリ現今行ハル所ノ人相書ニ付テ言ヲ爲ス者ニ非ス現行ノ人相書ニ於テハ頸圍キ方顔長キ方眼九キ方等ノ人相ハ小説ノ領分ニ於テスルニ非サレハ決シテ犯人ノ認識ヲ爲ス可キモノニ非サルナリ

唯骨格寸方獨リ能ク以上ノ弊害ヲ防クコトヲ得寫真ハ大ニ人相書ニ勝ルコト多シ然レトモ寫真ハ唯僅ニ一部分ノ目的ヲ達スルモノニ過キス巴里ニ於ケル經驗ニ依レハ十年間警視廳ニ於テ集メタル寫真ノ數十萬ニ及ヘリ一犯人ヲ逮捕スル毎ニ一十萬ノ寫真ヲ調査スルコトヲ得ルカ曰ク能ハサル可シ於是乎寫真ハ未タ能ク再犯人調査ノ目的ヲ達ス可キモノニ非ス今後モ亦

今日マテノ如ク寫真ヲ以テ再犯人ヲ求メントスレハ最モ狡猾ニシテ最モ重大ナル罪ヲ犯シタル再犯人ハ必ス寫真ノ不完全ヲ利用シテ容易ニ初犯人ノ假裝ヲ爲スコトヲ得可シ警察ノ探偵殊ニ監獄ノ監守ハ多少犯人ノ面貌ヲ知ルト雖モ是レ實ニ巴里ニ於テスラ一ヶ月平均僅ニ二十人内外ニ過キス

然ルニ骨格寸方ノ方法ヲ適用シテ以來實ニ此數事ヲ覆スニ至リ許多ノ犯人ハ最早僞名ヲ稱フルノ無益ナルヲ知り其僞名ヲ捨テタル者多シ現ニ懲治場ノ監守ハ毎月僅ニ三名又ハ四名ノ僞名ヲ認ムルニ過キサルニ至レリ尙ホ今日ト雖モ僞ヲ稱スル所ノ犯人ハ久シク巴里ヲ離レテ僞名ヲ稱フルノ特別ノ理由ヲ有スル者ニ限レリ此方法ニ依テ毎月四十人以上ノ再犯人ヲ發見スルコトヲ得タリ

(二) 此ノ方法ノ組立 是ヨリ新方法ノ組立ニ付テ一言ス可シ予ハ前ニ一言セシコトアリ骨格寸方ハ必ス各犯人ニ付キ其骨肉各部ノ長短ヲ計ルニ在リト例ヘハ身丈頭ノ縦及ヒ横足ノ中指ノ長サ等即チ是ナリ余ハ此方法ノ應用ヲ明カニスル爲メニ是マテ十年間巴里ニ於テ集メタル十萬ノ寫真ヲ

以テ再犯人ヲ調査スト想像セシニ必ス左ノ如キ結果ヲ生スルヲ見ル可シ例ヘ  
ハ茲ニ十萬ノ寫眞アリ先ツ之ヲ男女ニ區別シ即チ一方ニ於テハ男ノ寫眞ヲ陳  
列シ一方ニ於テハ女ノ寫眞ヲ陳列シ女ハ男ノ寫眞ニ比シテ其數甚タ少ナキヲ  
以テ二萬ト假定シ尙ホ之ニ加フルニ二萬ノ幼者アリト假定セシニ残り六萬ノ  
男子中身丈ヲ基本トシテ之ヲ三種ニ區別ス可シ即チ身丈ノ小ナル者其數大凡  
二萬人トシ身丈ノ中ナル者大凡二萬人身丈ノ大ナル者其數又大凡二萬人ト爲  
シ今此種ノ數ヲシテ大抵平均ヲ得セシムルカ爲メニハ必ス身丈ノ中ナル者ハ  
身丈ノ小ナル者又ハ身丈ノ大ナル者ヨリモ寸方ノ區域狹カラサル可カラス例  
ヘハ「メートル」六十二乃至「メートル」六十七ニ當ル者ヲ以テ中丈ノ人ト爲シ  
「メートル」六十八ヨリ「メートル」ニ至ルマテノ人ヲ以テ身丈ノ大ナル者ト爲  
シ而シテ「メートル」六十一ヨリ「メートル」内外ノ者ヲ以テ身丈ノ小ナル者ト爲  
爲ス此三種ノ區別ノ又更ニ同一ノ原則ニ從テ之ヲ細別シ此場合ニ於テハ寸方ノ  
寸方ニ依ラスシテ更ニ各人ノ頭ノ縦ノ寸方ヲ三種ニ小分ス可シ  
身丈ヲ三分シ而シテ尙ホ頭ノ丈ケヲ三分スレハ合計九種ノ區別ト爲ル即チ縱

ノ小ナル頭ヲ有スル者ヲ六千若干ト爲シ縦ノ中ナル頭ヲ有スル者ヲ六千若干  
ト爲シ縦ノ大ナル頭ヲ有スル者ヲ六千若干ト爲シ而シテ更ニ此六千若干ニ就  
キ頭ノ横ノ寸方ニ因テ之ヲ三種ニ區別スルトキハ下ノ如シ頭ノ横ノ小ナル者  
二千頭ノ横ノ中ナル者二千頭ノ横大ナル者二千若干人ト爲ス  
經驗上許多ノ人民ニ於テハ頭ノ横ハ頭ノ縦ニ拘ハラス大ニ變更スルモノナリ  
之ヲ換言スレハ頭ノ縦ニ付テ有スル所ノ寸方ハ之ニ因テ以テ到底頭ノ横ノ寸  
方ヲ割出スコトヲ得ス

中指ノ長サハ第四ノ區別ト爲ル上段ノ頭ノ寸方ニ因テ三別シタル寫眞ヲ取テ  
尙ホ之ヲ各自ニ三別スレハ六百ノ數ヲ得六百ノ數ニ付テ更ニ之ヲ三別シ又其  
三別シタル各自ニ付テハ足ノ長サヲ基礎トシテ尙ホ之ヲ三別シ後又其三別  
シタル各自ニ付テ眼ノ色及ヒ腕ノ寸法ニテ之ヲ區別スルコトヲ得左スレハ頭  
ノ縦ノ寸法ヲ中指ニ因テ三別スレハ凡ソ六百ノ數ヲ得中指ノ六百ノ數ヲ足ニ  
因テ三別スレハ二百ト爲ル更ニ之ヲ腕ニ因テ三別スレハ六十三餘ト爲ル尙ホ  
眼ニ因テ七ニ區別スレハ九ト爲ル如此方法ニ因テ十萬ノ寫眞終ニ五段ノ區別



ニ因テ結局十枚内外ノ小數ニ至ル如此十萬ノ寫眞ヲ分別シテ其極十人内外ノ數ニ減スルニ至ルトキハ即チ再犯者ヲ發見スルコト極メテ容易ナリ  
 今試ニ姓名ヲ匿シタル犯人ヲ逮捕シテ此犯人ハ或ハ假定セシ寸法ヲ取ラレタル者カ又ハ寫眞ヲ取ラレタル者ナリヤ否ヤヲ知ルノ必要アリト假定セシニ先ツ第一ニ其人ノ身丈ヲ度ル其身丈ニ付テ其人ノ寫眞ノアル可キ所ヲ詮索スルナリ次ニ其人ノ頭ノ縦ヲ度レハ尙ホ寫眞ノ數ヲ減スルニ至ル次ニ其人ノ頭ノ横足ノ長ヲ眼ノ色ヲ調査スレハ容易ニ其人ノ寫眞ノ現在スル場所ヲ知ルコトヲ得然レトモ論者或ハ曰ハシ此區別ノ界ニ當ル所ノ數ヲ有スル人ハ之ヲ如何ナル場所ニ置カントスルカ例ヘハ「メートル六十八乃至「メートル六十八ノ身丈ヲ有スル者アリトセヨ若シ此人ヲ以テ「メートル六十八乃至「メートル六十八ノ部分ニ置カントセハ數年ノ後年齢長スルニ及ンテ其身丈ニ付テ「メートル六十八ノ部分ニ置カントセハ「メートル六十七ニ至ルコトアラン如此場合ニ於テハ必ス「メートル六十二乃至「メートル六十四ノ中丈ヲ調査セサル可カラサルニ至ルト  
 如此寸方ノ數字區別ノ境ニ當ルトキハ辭書ニ付テ字ヲ探ルカ如ク其類似ノ者

ヲ探レハ可ナリ若シ身丈ノ大ナル部分ニ於テ之ヲ得ル能ハサルトキハ更ニ轉シテ身丈ノ小ナル部分ヲ調査スルニ於テハ必ス之ヲ得ルコトアル可シ此方法ハ最も簡便ニシテ最も迅速ナルモノナリ若シ二分間乃至三分間ヲ費セハ市中ノ巡查ノ智ヲ以テスルモ容易ニ之ヲ行フコトヲ得可シ帽子屋ハ其店ニ於テ頭ノ寸方ニ付テ三十二ノ番號ヲ有シ靴屋ハ靴ノ寸方ニ付テ二十ノ番號ヲ有ス然レトモ子帶ハ三種以上ノ區別ヲ爲スモノニ非サルナリ即チ大中小是ナリ而シテ寸方ヲ取ル方法ハ寸方ヲ取ル人モ自ら誤ル所ナク又寸方ヲ受クル人モ人ヲ誤ラシムルナキヲ期ス可キ正確ノ方法ヲ用ヒサル可キカ

第六章 數罪ノ責任

第一節 總論

數罪俱發ノ名稱ハ之ヲ支那律ニ採ル支那律ニ於テ同時ニ數個ノ犯罪併發シタルトキハ數罪俱發例トシテ重キニ從テ處斷スルノ規定アリ現行刑法ハ此規法ヲ採リ付スルニ此名稱ヲ以テシタリ然レトモ刑法ノ趣旨ハ數個ノ犯罪ヲ併合シテ裁判シ又ハ一犯罪ニ付テ未タ確定判決ヲ經サル前ニ他ノ犯罪ニ付テ裁判

ヲ爲ス場合ヲ謂フカ故ニ俱發ノ名稱ハ少シク刑法ノ精神ニ適合セサルモノアリ併合罪又ハ單ニ數罪ト言フヲ以テ穩當ト爲ス改正刑法草案ニ於テハ此場合ヲ名ケテ併合罪ト稱ヒリ然レトモ其意義全ク現行刑法ト同一ナラス後ニ至リテ少シク論スル所アラシク今假リニ刑法ノ名稱ニ付テ之カ定義ヲ下セハ數罪俱發トハ同一犯人未タ確定判決ヲ經サル前ニ於テ數個ノ罪ヲ犯シタル場合ヲ謂フ此場合或ハ時ヲ同シウシテ裁判所ニ繫屬スルコトアリ或ハ時ヲ異ニシテ繫屬スルコトアリ其時ヲ同シウシテ繫屬スル場合ト其時ヲ異ニシテ繫屬スル場合トヲ問ハス刑法上特別ノ規則ヲ適用スルニ至リテハ常ニ異ナル所ナシ數罪俱發ノ成立ニ二條件アリ

第一條件 法律ニ觸ルル可キ二個以上ノ犯罪アルコトヲ要ス 數罪中ノ各罪ハ必ス獨立シテ成立セサル可カラス即チ一所爲ニシテ一罪ヲ爲スモノ二個以上成立シ又ハ一所爲ニシテ二個以上ノ法律ニ觸ルルモノ成立スルコトヲ要スルナリ故ニ繼續犯ノ如キ又ハ加重ノ情狀ノ如キハ數罪ノ計算ニ入ル可キモノニ非サルナリ繼續犯ハ一犯罪成立ノ時間他ノ犯罪ニ比較シテ頗ル延長セテ

一罪ヲ構成スルモノニシテ其時間如何ニ延長スルモ素ト是レ一所爲ノ延長ニ過キサレハ之ヲ以テ數罪ノ間斷ナク繼續スルモノト看做ス可キニ非サルナリ又加重ノ情狀ニ於テモ亦然リ加重ノ情狀ハ一ノ獨立罪アリテ其罪ノ成立ニ付テ加重ス可キノ情狀即チ其情狀ノミニテハ一罪ヲ成ス能ハサルモ獨立ノ犯罪ニ附着セテ其罪ノ責ヲ重クスルノ原因ト爲ルモノナレハ情狀ノ程度如何ニ重シト雖モ是レ亦一罪ヲ論ス可キモノニ非サルナリ例ヘハ監禁罪ノ如キ監禁ノ時間幾年月ヲ經過スルモ監禁ハ素ト一所爲ニ外ナラザレハ時間ノ延長ニ因テ以テ數罪ト爲ルノ理由アルナシ又竊盜罪ノ如シ門戶踰壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ破壞スルノ事實アルモ是レ竊盜ニ附着シテ加重ノ情狀ヲ爲スニ過キス獨立シテ一罪ヲ爲スモノニ非サルナリ但家宅侵入罪ノ如キハ是レ別罪ヲ爲スモノナルカ故ニ毫モ竊盜ニ關係ナクシテ一罪ヲ爲スト雖モ竊盜ノ場合ニ於テハ家宅侵入ノ事實アルモ是レ竊盜ノ所爲中ニ含蓄スルモノニシテ別ニ侵入罪ト竊盜罪ト併合罪ヲ爲シタルモノニ非サルナリ要スルニ繼續犯ト加重ノ情狀ハ獨立シテ一罪ヲ爲ス可キモノニ非サルヲ以テ數罪ノ場合ト混スルコトナ

第二條件 確定判決以前ニ於テ數罪ヲ犯スコトヲ要ス 一罪ヲ犯シ既ニ確定判決ヲ經テ後更ニ他ノ罪ヲ犯シタルトキハ所謂再犯ニシテ既ニ前段ニ論ゼシ所ノ場合ニ屬ス數罪俱發ハ先ニ一罪アリテ之ニ付テ未タ確定判決ヲ經サル前更ニ他ノ罪ヲ犯シ此二罪俱ニ發シタルトキ即チ確定判決ナキ以前ニ同時ニ又ハ異時ニ發シタル場合ヲ謂フ元ト再犯ノ場合モ亦數罪俱發ノ場合モ二罪以上ノ成立アル所ヨリ之ヲ觀レハ共ニ同一ナリト雖モ唯確定判決ヲ經テ後ニ他ノ罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ再犯ト謂ヒ確定判決ヲ經シテ更ニ他ノ罪ヲ犯シタルルトキハ數罪俱發ト謂フ故ニ再犯ト數罪俱發トノ區別ハ唯確定判決ノ有無ニ在リテ存スルナリ

以上二個ノ條件ヲ具備シテ始メテ數罪俱發ノ場合ヲ爲ス數罪ノ俱發ハ或ハ同一犯人數個ノ犯罪行為ヲ爲シ其各行爲ニ於テ一罪ヲ構成スルニ因リテ成立スルコトアリ或ハ犯罪行為ハ單一ニシテ數個ノ法律ニ抵觸スルニ因リテ成立スルコトアリ第一ノ場合ハ解釋上之ヲ名ケテ有形上ノ數罪俱發ト謂ヒ第二ノ場

合ハ想像上ノ數罪俱發ト謂フナリ

第一 有形上ノ數罪 有形上ノ數罪トハ同一犯人數個ノ犯罪行為ヲ行ヒ數度ニ同一法律又ハ數個ノ法律ヲ犯ス場合ヲ謂フ例ヘハ竊盜ヲ爲スカ如ク又ハ一罪ヲ犯サンカ爲メニ他ノ特別ノ罪ヲ犯セシ場合ノ如キヲ謂フ然レトモ有形上ノ一罪ト數罪ハ犯罪ノ所爲ヲ以テ一所爲ナリト斷定シタル以上ハ二所爲三所爲ニ計算スルコト毫モ困難ナシ又一法律又ハ數法律ニ抵觸スルモノタルコトヲ知ルハ至テ容易ナリト雖モ解釋上最モ困難ナリトスル所ノモノハ一罪ノ斷定ニ在リ抑モ一罪トハ如何ナル場合ヲ謂フカ一罪トハ刑法ノ禁制命令ニ對シテ單一ノ違反ヲ爲シタル場合ヲ謂フ刑法ハ國民ニ對シテ或所爲ヲ爲スコトヲ禁シ又ハ斯ル所爲ヲ爲スコトヲ命シ依テ以テ社會ノ治安ヲ維持セシコトヲ計ルモノナリ其禁制ニ對シテ一回違反スレハ是レ一罪ヲ構成シ其命令ニ對シテ一回ノ違反ヲ爲セハ是レ亦一罪ヲ構成スルナリ例ヘハ盜罪ハ人ノ所有權ヲ侵害スルコトヲ禁シタルノ罪ナリ一度人ノ所有權ヲ侵害センカ所有權ノ目的タル財物ノ數又ハ其種類如何ニ拘ハラズ侵害ノ數ハ即チ一度ニ過キ

サルヲ以テ是レ一罪タルニ過キササルナリ故ニ人ノ家宅内ニ入り一回ニ百圓ノ金時計衣服ヲ合セテ之ヲ盜ムモ金時計衣服ハ其屋ノ主人ノ所有權ノ目的タルニ過キササルヲ以テ一度ニテシ此數個ノ財物ヲ奪フタルモ是レ一度其主人ノ所有權ヲ害シタルニ過キササルナリ若シ二回又ハ三回ニテ金時計衣服ヲ奪フタリトセンカ二回三回人ノ所有權ヲ犯シタルヲ以テ是レ二罪若クハ三罪ヲ爲スモノナリ要スルニ所有權ヲ侵害スル度數ハ即チ所有權ノ侵害ニ對スル禁制ヲ犯シタルノ度數ニ等シキヲ以テ其度數ニ應ジテ數罪ヲ爲スモノナリ

又例ハ毆打創傷罪ニ於テモ亦然リトス毆打創傷罪ハ人ノ身體ノ危害ヲ擔保スルニ在リ故ニ身體ニ對シテ一回ノ危害ヲ與フレハ是レ一回ノ毆打創傷罪ナリ二回ノ危害ヲ與フレハ是レ一回ノ毆打創傷罪ナリ於是論者人ヲ毆打スルニ當リテ繼續シテ數度ノ打撃ヲ加フルトキハ則チ數個ノ犯罪アリト謂フ即チ一打撃ニシテ一罪ヲ構成スレハ則チ數打撃ニシテ數罪ヲ構成ス可シト謂フニ在リ然レトモ數打撃ハ必スシモ數個ノ創傷罪ヲ構成スルニ非サルナリ必スヤ犯人ノ意思ヲ研究シテ後ニ數罪ト一罪ノ區別ヲ爲ササル可カラス若シ犯人ノ意思

ハ被害者ノ身體ニ對シテ大ナル侵害ヲ加フルニ在ルトキハ數個ノ打撃ハ其目的被害者ノ身體ニ對シテ一ノ大ナル創傷ヲ爲スニ在ルトキヲ以テ大ナル一打撃ヲ加ヘタルニ等シキナリ人ニ對シテ一寸ノ創傷ヲ負ハシムル爲メ一回ニテ一寸ヲ傷クルモ二回三回ニシテ一寸ノ傷ヲ爲スモ理ニ於テ異ナル所アル可カラス若シ之ニ反シ犯人ノ意思ハ一ノ創傷ヲ爲スニ非スシテ數打撃ニ因リテ數個ノ創傷ヲ爲サント欲スルニ在ルトキハ是レ各打撃ハ當ニ一罪ヲ構成スルヲ以テ宜シク數罪アリト謂フ可シ

貨幣偽造罪ノ場合ニ於テモ亦同一ニ論スルコトヲ得ヘシ貨幣偽造罪ハ流通貨幣ノ信用ノ侵害ヲ防カントスルニ在ルトキヲ以テ犯人ノ意思一回貨幣ノ信用ヲ侵害セント欲シテ其偽造ヲ爲シタルトキハ偽造シタル貨幣カ幾何ノ巨額ニ達スト雖モ是レ亦一罪ニ外ナラサルナリ即チ巨額ノ偽造貨幣ヲ出スハ深ク貨幣ノ信用ヲ侵害セントスル者ナリ少シク偽造貨幣ヲ製造スルハ少シク信用ヲ侵害セントスル者ナリ唯是レ信用侵害ノ程度問題ニ外ナラス偽造ノ額ニ付テ一罪ト數罪トヲ區別スルモノ非サルナリ若シ一回偽造貨幣ヲ製造シ十分貨幣ノ信

用ヲ侵害シテ而シテ一旦偽造行爲ヲ罷メ而シテ又更ニ偽造ニ着手シタルトキハ是レ即チ二回ノ侵害ヲ爲シタル者ト謂ハサル可カラヌ尙ホ今日殿打創傷ヲ爲シテ明日又更ニ第二回ノ殿打創傷ヲ爲スト少シモ異ナル所ナシ

第二 想像上ノ數罪 想像上ノ數罪トハ犯人ノ行フタル所爲ハ一所爲ニシテ數個ノ法律ニ抵觸シタル場合ヲ謂フ例ハ群衆ニ對シテ發銃スルカ如シ發銃ノ所爲ハ單一ナリト雖モ其發銃ノ結果三人ヲ殺シ他ノ三人ニ負傷セシメタルトキハ是レ一所爲ニシテ三個ノ殺人既遂罪ト三個ノ殺人未遂罪トヲ發生セシメタルナリ若シ又懷胎ノ婦女ニ對シテ毒藥ヲ服セシメ而シテ死ニ至ラス僅ニ胎兒ヲ墮胎セシメタルトキハ是レ則チ一所爲ニシテ毒殺未遂罪ト墮胎罪トヲ構成スルナリ又印紙再貼用罪ノ如シ印紙ヲ再貼用スルトキハ刑法ニ於テハ印紙再貼用罪ヲ構成シ證券印紙稅規則ニ於テハ脫稅ノ罪ヲ構成ス即チ是レ再貼用ノ一所爲ニテ刑法ノ犯罪ト印紙稅則違犯ノ罪トヲ構成スルモノナリ

第一第二ノ例ニ於テハ何人モ數罪ヲ以テ論ス可キコトヲ疑フ者ナシト雖モ第三ノ例ニ至テハ世人モ亦其數罪ナルヤ否ヤヲ疑フテ止マヌ現ニ大審院ノ判決

例ニ於テモ印紙再貼用ニ付テハ數罪俱發ノ規則ヲ適用ス可キモノニ非ストセリ然レトモ印紙再貼用ハ之ヲ以テ一罪ナリトセシカ現ニ刑法ニ於テ印紙ノ再貼用ヲ禁シタル規則アリ而シテ又證券印紙稅規則アリテ脫稅ノ罪ヲ罰ス一所爲ニシテ二法律ニ觸ルルトキハ之ニ適用スルニ數罪俱發ノ原則ヲ以テス可カラストセハ刑法ノ罰金ト證券印紙稅規則ノ罰金ハ必ス之ヲ併科セサル可カラ然レトモ刑法ニ於テハ數罪併發シタル場合ニハ唯重キ所爲ノミヲ論ス可シト規定シ數罪アリテ數個ノ法律ニ觸ルル場合スラ尙ホ且一ノ重キ所爲ニ因テ處斷スト爲ス况ヤ一所爲ニシテ數個ノ法律ニ觸ルル場合ニ於テヲヤ其之ヲ併科スルヲ得サルヤ蓋シ明白ナリ余ヲ以テ之ヲ觀レハ凡ソ如此場合ニ於テハ現行刑法ノ規定スル數罪俱發例ヲ適用スルニ於テ毫モ不可ナキヲ信スルトリ蓋シ刑法ニ於テ數罪ト謂フハ數個ノ法律ニ觸レタル所以ヲ謂フノ意ナラン數所爲ニシテ數個ノ法律ニ觸ルルモ亦一所爲ニシテ數個ノ法律ニ觸ルルモ法律ニ觸レタル所即チ一罪ヲ爲スヲ以テ苟モ觸ルル所ノ法律數個アル以上即チ數個ノ法律ニ違反シタルモノト謂ハサル可カラス數個ノ法律ニ違反スルハ是レ

即チ數罪ナリ故ニ印紙再貼用罪ニ於テモ再貼用ノ所爲ハ單一ナリト雖モ其一  
 所爲ニシテ二個ノ法律ニ觸レタル時ハ即チ二個ノ法律ニ觸レタルヲ以テ二罪  
 アリト謂フハ固ヨリ至當ナリ而シテ如此一所爲ニシテ二個ノ法律ニ觸ルハト  
 キハ觸ル、所ノ法律ヲ比較シテ單ニ重ク罰スル所ノ法律ヲ適用ス可キノミ刑  
 法第百條ニ所謂「二ノ重キニ從テ處斷ス」トハ重キ法律ニ照シテ之ヲ論スルト  
 ノ謂ナリ今印紙再貼用罪ニ付テ法律ノ輕重ヲ比較セシニ豫メ其輕重ヲ定ム  
 ルコトハ到底能クス可キノ業ニ非スト雖モ各事實ニ付テ之ヲ論スルトキハ輕  
 重ヲ定ムルコト決シテ困難ニ非サルナリ例ヘハ一錢印紙ヲ再貼用セタリト假  
 定センニ刑法ノ規則ニ因リ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス可キヲ以テ輕ク  
 モ二圓ノ罰金ヲ科セタル可カラス又之ヲ證券印紙稅規則ニ照セハ脫稅高二十  
 倍ノ罰金ニ處ストアルヲ以テ一錢ノ二十倍二十錢ノ科料ヲ科スルヲ以テ足レ  
 リトス故ニ此場合ニ於テハ刑法ヲ重シトシ證券印紙稅則ヲ輕シトセサル可  
 カラス若シ之ニ反シ五圓ノ印紙ヲ再貼用シタリトセンカ刑法ノ規則ハ常ニ二  
 圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ科スルニ止マリ證券印紙稅規則ニ照ストキハ五圓ノ

二十倍百圓ノ罰金ニ處ス可キヲ以テ此場合ニ於テハ證券印紙稅規則ヲ以テ重シ  
 トシ刑法ノ規則ヲ以テ輕シトセサル可カラス故ニ曰ク印紙再貼用罪ニ適用ス  
 可キ法律ノ輕重ハ事實ニ因リテ變化スルヲ以テ豫メ一定ノ原則ニ依リ之ヲ定  
 ムルコトヲ得サルナリ

以上ハ一罪ト數罪トノ標準并ニ數罪ノ見解ハ必スシモ所爲ニ因ラス違反ノ數  
 ヲ以テ之ヲ定ム可キヲ論セルナリ是ヨリ數罪ト再犯ニ付テ刑法上其原理ヲ異  
 ニスル所以ヲ論セム

再犯加重ハ犯罪自體ニ於テ加重ノ情狀アルカ故ニ之ヲ加重スルニ非スシテ再  
 犯人ノ身分普通ノ刑罰ヲ以テ甘シス可カラサルモノアルカ故ニ加重ノ刑ヲ用  
 フルナリ於是乎再犯ハ二個ノ結果ヲ生ス

第一結果 再犯ニハ刑罰ヲ併科ス 再犯モ亦一種ノ數罪ニ外ナラス即チ一度  
 罪ヲ犯シテ二度又罪ヲ犯シタル者ナルカ故ニ其數犯タルヤ疑フ所ナキナリ然  
 レトモ再犯人ハ既ニ初犯ノ場合ニ於テ一度刑ニ處セラレタル者ナリ一度刑ニ  
 處セラレナカラ又再ヒ罪ヲ犯シ而シテ再ヒ刑罰ヲ受クルトキハ即チ初犯ノ刑

罰ト再犯ノ刑罰ト二刑罰ノ併科アルヲ見ルナリ故ニ曰ク再犯人ニハ刑罰ヲ併科スト是レ數罪俱發ノ場合ト相反スル所ニシテ數罪俱發ノ場合ニ於テハ數罪ノ内重キ一罪ニ付テ處斷スルヲ以テ原則ナリトス決シテ各罪ニ對シテ刑ヲ併科スルニ非サルナリ

第二結果 再犯ノ場合ニ於テハ刑罰ヲ加重ス 再犯ニ付テハ單ニ刑罰ヲ併科スルノミナテス尙ホ又併科スル所ノ刑ニ一等ヲ加ヘテ而シテ之ヲ罰スルナリ是レ又數罪俱發ノ場合ニ於テ決シテ見サル所ノ結果ナリ數罪俱發ノ場合ニ於テハ數罪中一ノ重キ所爲ニ付テ刑罰ヲ移スト雖モ其重キ所爲ニ對シテ別ニ加重ヲ爲スコトアルナシ

再犯ト數罪ニ付テ如此結果ヲ異ニスル所以ノモノハ蓋シ數罪ノ場合ニ於テハ犯人ハ元ヨリ數個ノ罪ヲ犯シタル者ナルヲ以テ大ニ犯罪ヲ慣行トスル惡僻アル者タルコトヲ推知スルニ足ルナリ故ニ社會ノ危害ヨリ觀察スルトキハ是レ又非常ノ危險物タルヤ疑フ容レサル所ナリ然レトモ數罪ノ犯人ハ未タ刑罰ノ警戒ニ遭遇セズ隨テ未タ刑罰ノ威嚴ヲ味ヒタル者ニ非サルカ故ニ若シ早ク之

ニ刑罰ノ制裁ヲ加ヘタルコトアラハ或ハ刑罰ノ恐ル可キヲ知り一罪ニシテ而シテ忽チ其犯罪ヲ罷ムルナル可シトノ推測ヲ爲スコトヲ得既ニ此推測ヲ爲スコトヲ得ハ彼ノ數罪ヲ犯スニ至リシハ是レ唯彼ノ惡僻ノ結果ニ出テタリト謂フ可カラズシテ社會ノ懈怠モ亦少シク之ヲ責メサル可カラズ故ニ數罪者ニ對シテハ刑法ハ多少恕スル所アリテ刑ヲ併科スルコトヲ爲サズ又加重スルコトヲモ爲ササルナリ之ニ反シ再犯ハ既ニ一度刑罰ヲ受ケタル者ナリ能ク刑ノ恐ル可キヲ知りテ而シテ尙ホ又刑罰ヲ犯スニ至リテハ是レ普通ノ刑ニ甘ンスルコトヲ知ラサル者ナリ普通ノ刑ニ甘ンスルコトヲ知ラサル者ニ對シテ豈ニ夫レ刑罰ノ併科ノミニテ安シヌ可キノ理アラシヤ宜シク普通ノ刑ヨリ重キ刑ヲ以テ之ヲ罰ス可キナリ

夫レ再犯者ト數罪者ハ同一ノ原則ヲ以テ之ヲ支配ス可カラズトセハ數罪者ニ對シテハ果シテ如何ナル方法ヲ用フルヲ以テ可ナリト爲スカ現時歐洲各國ニ於テ行ハルル所ノ方法ヲ見ルニ數罪ノ處分ニ付テハ三個ノ主義アルヲ見ル

第一併科主義 此主義ノ趣旨ニ曰ク一罪アレハ一刑之ニ伴フハ刑法ノ通則ナ

リ然ラハ則チ數罪ノ場合ニ於テハ數刑ヲ併科スルハ刑法ノ原則ニ適合スルモ  
 ノナリト謂フヲ得可シト刑法ノ純理ヨリ觀察スレハ一罪ニ付テ一刑ヲ科ス可  
 キヲ以テ數罪ニ對シテ數刑ヲ科スルハ自然ノ結果ナルカ如シ若シ夫レ數罪中  
 其重キ一罪若クハ二罪ニ對シテノミ刑罰ヲ加フ可シトセハ餘罪ハ之カ爲メニ不  
 當ノ利得ト爲リ何等ノ制裁ヲ受クルニ至ラスシテ止マン即チ犯人ハ數罪ヲ犯  
 シタルトキハ唯重キ所爲ノミニ付テ制裁ヲ受クレハ則チ足レルヲ以テ輕キ所  
 爲ハ法律上全ク之ヲ罰セサルニ至ルト謂フヲ得可シ人苟モ一罪ヲ犯シタルト  
 キハ直チニ之ヲ罰シテ而シテ數罪ヲ犯シタルトキハ輕キ殘餘ノ罪ヲ罰セスト  
 ノ理果シテ焉クニ在ル歟殊ニ唯重キ一罪ヲ罰スルニ止マルトセハ犯人ハ一罪  
 ヲ犯スモ罰セラレ又數罪ヲ犯スモ同一ニ罰セラルルヲ以テ寧ロ一罪ニ付テ一  
 刑罰ヲ受ケンヨリ數罪ヲ犯シテ一刑罰ヲ受ケ他ノ輕キ餘罪ヲ利得スルニ若ク  
 スト爲シ喜ンテ犯罪ノ數ヲ増スニ至ラン是レ即チ犯人ニ對シテ犯罪ヲ獎勵ス  
 ルニ非スシテ何ノ故ニ併科主義ハ寧ロ刑法ノ純理ニ適シ大ニ犯罪ノ數ヲ減ス  
 ルノ希望アリト謂フヲ得可シ然レトモ併科主義ニハ二個ノ弊害アリ

(第一弊害) 併科主義ハ總テノ犯罪ニ通シテ之ヲ適用スル能ハサルノ弊害アリ  
 試ニ數罪中其一罪ハ死刑ニ係ル者アルカ又ハ其數罪ハ俱ニ死刑ニ罹ル者トセ  
 ハ到底一人ニ對シテ同時ニ死刑ト他ノ自由刑トヲ併科スルコトヲ得ス又一人  
 ニ對シテ數回ノ死刑ヲ執行ス可カラサルヲ以テ如此場合ニハ併科主義ヲ貫徹  
 セント欲スルモ到底能ハサルナリ論者或ハ曰ハン一人ニ對シテ數個ノ死刑ヲ  
 執行スルコトハ實際上能クス可キノ業ニ非スト雖モ一罪ハ死刑ニ當リ他ノ罪  
 ハ自由刑ニ當ルトキハ初ニ自由刑ヲ執行シ後其了ルヲ俟テ更ニ死刑ヲ執行  
 セハ死刑ト自由刑ト併科ヲ爲スコトヲ得ルナリト是レ大ニ誤レリ若シ自由刑  
 中無期ノモノアリタルトキハ死セザレハ則チ其刑ノ執行ヲ了ハル能ハサルカ  
 故ニ一ノ無期刑ノ了ハリタル後ニ於テ他ノ無期刑ノ執行ス可カラサルハ猶ホ  
 二個ノ死刑ヲ執行スルカ如ク實際上能クス可キノ業ニ非サルナリ故ニ併科主  
 義ハ或場合ニ於テハ之カ實行ヲ爲スヲ得可シト雖モ到底總テノ刑罰ニ通シテ  
 之ヲ適用スルコトヲ得可キモノニ非サルナリ

(第二弊害) 併科主義ハ刑罰ノ酷ニ失スルカ爲メ却テ刑法ノ精神ニ反スルノ恐



アリ若シ夫レ無制限ニ併科主義ヲ勵行センカ細微ノ數罪ヲ犯シタル者ニ對シテ數個ノ刑ヲ科セサル可カラサルカ故ニ屢々重大ノ一犯罪ニ科スル刑罰ヨリモ尙ホ重キ罰ヲ科スルノ弊害アリ例ヘハ違警罪ハ犯罪ノ最モ輕キモノナリ勾留十日ノ犯罪ヲ三十度犯シタリトセンカ是レ三百日ノ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタル者ニ同シ而シテ三百日ノ輕禁錮ノ刑罰ハ罪人隱匿罪ニ科スル刑ニシテ其最長期ニ當ルナリ刑法第四百二十五條ノ違警罪目ニ記載スル所ノ犯罪ト罪人隱匿罪ト同一ニシテ論スルノ理アラシヤ又例ヘハ三十年ノ重禁錮ニ處セサル可カラス三十年ノ重禁錮ハ有期徒刑ノ二倍ナリ竊盜ノ罪如何ニ重大ナリト雖モ之ニ科スルニ二倍ノ有期刑ヲ以テスルノ理アラシヤ是レ犯人ニ對スルノ刑酷ニ失シテ而シテ刑法ノ精神ニ反スルモノニ非スヤ何シ立法者ニ於テ豫メ法律ニ因リ重罪輕罪違警罪ノ區別ヲ爲ササルトキハ違警罪ニ科スルニ輕罪ノ刑ヲ以テスルモ可ナリ又輕罪ニ科スルニ重罪ノ刑ヲ以テスルモ敢テ不可ナル所ナシ然レトモ既ニ犯罪ノ所爲ヲ區別シテ重罪ニハ重罪ノ刑ヲ適用シ輕罪ニハ輕罪ノ刑ヲ適用シ違警罪ニハ違警罪ノ刑ヲ適用ス可シト規定シタル以上

ハ輕罪ニ對シテ重罪ノ刑ヲ適用スルノ理由ナク違警罪ニ對シテ輕罪ノ刑ヲ適用スルヲ得サルヤ判然ナリ然ルニ之ヲ適用セントスルトキハ是レ即チ刑法ノ精神ニ反スルモノト謂ハサルヲ得ス

第二吸收主義 吸收主義ハ數罪中最モ重キ所爲ニ對シテ刑ヲ科シ他ノ輕キ所爲ハ盡ク重キ所爲中ニ吸收スト云フニ在リ是レ佛國刑法及ヒ我現行刑法ノ採用スル所ノ主義ナリ此主義ニ依レハ併科主義ニ於ケルカ如キ弊害ヲ見ルコトナシト雖モ又他ニ大ナル弊害アルヲ見ル即チ數罪ヲ犯シタル場合ニ於テ唯其重キ所爲ノミニ付キ之ヲ罰シ輕キ所爲ハ悉ク重キ所爲中ニ吸收スルモノナリトシテ之ヲ不問ニ付スルトキハ則チ犯人ハ好ンテ數罪ヲ犯スニ至ルノ弊害ヲ生ス即チ犯人ハ一罪ヲ犯シテモ罰セラレ數罪ヲ犯シテモ亦其罰等シキトキハ一罪ノ利益ニ安ンセンヨリハ寧ロ數罪ヲ犯シテ數個ノ利益ヲ收ムルニ若カスト爲サン是レ法律ハ吸收主義ヲ用ヒテ而シテ犯罪ヲ獎勵セント欲スルモノナリ殊ニ併科主義ニ於テ既ニ論セシ如ク人苟モ罪ヲ犯シテ之ヲ罰ス可シトセハ數罪ノ場合ニ於テ唯其重キ所爲ノミヲ問フテ其輕キ所爲ヲ問ハサルノ理毫モ

之アラサルナリ

第三制限併科主義 是レ則チ第一ノ併科主義ヲ制限シテ其弊害ヲ防キ數罪ノ各所爲ヲ罰シテ而シテ第二ノ吸收主義ノ弊害ヲ除キタルモノナリ此主義ハ原則上數個ノ犯罪ニ對シテ悉ク刑罰ヲ併科シ而シテ其併科ノ程度ヲ制限シテ第一主義ノ如キ弊害ヲ免レンコトヲ欲シタルナリ即チ數個ノ罪ヲ犯シタル者アルトキハ其數罪ヲ混一シテ特別ノ一罪ト爲シ之ニ科スルニ特別ノ刑ヲ以テセント欲スルニ在リ之ヲ換言スレハ數罪中其重キ一罪ニ付テ之ヲ罰スルコトヲ爲サスシテ數罪中何レノ犯罪ニモ適用セサル所ノ刑罰ヲ以テ數罪ヲ合併シテ之ヲ一罪ナリト看做シ之ニ科スルニ其特別刑ヲ以テスルナリ幾個ノ犯罪成立スルモ之ヲ混一ニシテ特別刑ヲ以テスルトキハ即チ各犯罪ノ輕重ニ比例シテ而シテ多少刑罰ノ之ニ伴フヲ見ルナリ而シテ其特別刑ハ犯罪ノ輕重ニ應ジテ常ニ變更スルコトヲ得ルカ故ニ決シテ一定ノ刑罰ニ非ス例ヘハ重罪ト輕罪ノ數罪ヲ犯シタルトキハ其重罪ノ重キ刑ヲ以テ標準トシテ其刑ニ加フルニ其刑ノ二分ノ一若クハ三分一ノ刑ヲ以テシテ其重罪ノ本刑ニ其本刑ノ二分一若クハ三分一ヲ加ヘタル刑ヲ以テ總テノ數罪ヲ罰スルカ故ニ重罪ノ本刑ノ二分一若クハ三分一ノ刑ハ是レ他ノ重罪外ノ犯罪ニ科スル所ノ刑ニ外ナラス而シテ刑法ハ重罪ノ刑ニ加フルニ其刑ノ二分一若クハ三分一ノ刑ヲ以テスルコトヲ許ストキハ即チ刑法ハ重罪ノ本刑ニ其二分一又ハ三分一ヲ加ヘタル特別刑ヲ制定シタルモノナリト謂ハサルヲ得ス之ヲ換言スレハ裁判官ノ自由ニ或ハ輕クシ或ハ重クスルコトヲ得ル所ノ特別刑ヲ以テ此數罪ヲ罰スルナリ此主義ハ第一有期刑若クハ罰金ノ刑ニ非サレハ之ヲ適用スルコトヲ得ス故ニ死刑若クハ無期刑ニハ制限併科ノ適用ナシ此場合ニ於テハ到底刑罰ヲ併科スル能ハサルカ故ニ豫メ其併科セサルノ場合ヲ規定スルナリ(第二)有期刑中ニ於テモ其輕キ刑ハ制限ナク之ヲ併科シ唯禁錮以上ノ刑ニ付テノミ之カ制限ヲ爲ス故ニ罰金及ヒ違警罪ノ刑ハ制限ナク常ニ併科ヲ爲スコトヲ得違警罪ノ刑ニ付テ無制限ノ併科ヲ爲スハ現今各國ニ行ハル、所ノ刑法ハ殆ト其軌ヲ一ニスト雖モ獨リ罰金ノ刑ニ至テハ國ニ因リテ多少ノ制限ヲ爲スコトアリ

現今此主義ヲ採用スル所ノ國ハ獨逸白耳義和蘭ナリ我改正刑法草案ニ於テモ

亦此新主義ヲ採リ死刑及ヒ無期徒刑ヲ除キ禁錮以上ノ有期徒刑ハ制限併科ノ主義ヲ採リ罰金及ヒ違警罪ノ刑ニ付テハ無制限併科ノ主義ヲ採リタルナリ草案ノ規定ニ依レハ禁錮以上ノ有期徒刑ニ付テハ數罪中其重キ所爲ニ科ス可キ刑ニ其刑ノ二分一ヲ加ヘタル特別刑ヲ以テ數罪ノ混一罪ニ科スルコトト爲セリ此主義ヤ重キ一罪ノミヲ罰セス輕キ他ノ罪モ亦併セテ之ヲ罰スルコトヲ得ト雖モ全ク何等ノ弊害ヲモ之ナシト謂フ可キニ非サルナリ其弊害一アリ即チ若シ數罪ニ對シテ重キ所爲ニ科ス可キ刑ニ其刑ノ二分一ヲ加ヘタルモノヲ以テ之ヲ罰ス可シトセハ犯人ハ實ニ數罪ヲ犯スノ不利益ヲ知ルカ故ニ或ハ數罪ヲ獎勵スルノ弊害ハ能ク之ヲ除クコトヲ得可シト雖モ然レトモ犯人ニシテ數罪ヲ犯シタル場合ニ於テ必ス特別刑ノ重キ刑ニ處セラレンコトヲ恐レテ殊ニ其數罪ヲ陰蔽スルノ弊害アリ然レトモ犯罪ヲ陰蔽スルハ是レ犯人ノ性情ニシテ殆ント辯護權ノ一ナリト謂フモ敢テ不可ナラサルカ故ニ犯罪ノ陰蔽ハ必スシモ數罪ノ場合ニ於テ生スル所ノ弊害ニ非ス總テノ場合ニ於テ生スル所ノ弊害否ナ專ロ犯人ノ辯護權ナレハ其陰蔽セシ一罪ヲ發覺セシムルノ技量アル判

事ハ數罪アル場合ニ於テ其數罪ヲ發覺セシメサルノ理由アル可カラサルナリ然ラハ則チ犯罪ノ陰蔽ハ總テノ場合ニ於テ生スル所ノ弊害ナレハ決シテ特別刑ヨリ生スル所ノ特殊ノ弊害ナリト謂フヲ得サルナリ又論者ハ罰金ノ併科ニ付テ制限ナキヲ以テ或ハ犯人ノ財産ヲ蕩盡スルノ弊害アリト謂フ然レトモ現今我日本ニ行ハル所ノ刑法以外ノ諸規則ヲ見ルニ罰金刑ニ於テ數罪俱發ノ原則ニ適用スル場合殆ト稀ナリ大抵ノ場合ニ於テハ罰金ノ併科ヲ以テ原則ト爲スモノノ如シ酒造稅則精酒法違反ノ如キニ至テハ一萬圓以上ノ罰金ヲ科スルコト其例甚タ夥シトセス然レトモ如此巨額ノ罰金ヲ科スルニモ拘ハラス尙ホ且稅則ヲ犯シテ已マサルモノハ罰金ノ高額必スシモ犯人ノ財産ヲ蕩盡スルノ弊害アリト謂フ可カラス經驗上既ニ罰金ノ併科ヲ爲シテ而シテ格別ノ弊害ヲ見ルコトナケレハ則チ改正刑法案ノ併科主義ヲ勵行スルニ於テモ亦弊害ヲ生スルノ恐レナキヤ知者ヲ俟テ而シテ後ニ之ヲ知ラサルナリ

## 第二節 現行刑法ノ數罪俱發

現行刑法ニ於テ數罪俱發ノ適用ヲ區別セテ二ト爲ス刑罰ニ關スル俱發例ノ適

用及ヒ犯罪ニ關スル俱發例ノ適用即チ是ナリ

### 第一款 刑罰ニ關スル俱發罪ノ適用

現行刑法ニ於テハ二罪以上俱ニ發シタルトキハ一ノ重ニ從テ處斷スルノ原則ヲ探レリ此原則ニ付テハ二個ノ困難ナル問題アリ(第一)現行刑法ニ於テハ如何ナル方法ニ依リ刑ノ輕重ヲ定ムルコトヲ得ルヤ(第二)重キ一刑ノミヲ科セタルトキハ他ノ犯罪ニ科ス可キ附加刑ハ其主刑ト俱ニ吸收スルモノト爲スカ又ハ主刑ト分離シテ之ヲ重キ刑ニ附加ス可キカ例ヘハ毆打創傷罪、詐欺取財及ヒ官吏侮辱罪ノ數罪俱發シタリトセンニ數罪俱發例ニ依リ最モ重キ毆打創傷罪ヲ罰ストセハ官吏侮辱罪ニ於ケル附加刑ノ罰金又ハ詐欺取財ニ於ケル附加刑ノ罰金監視ハ主刑ト共ニ吸收セラルルカ將タ毆打創傷罪ニ附加シテ之ヲ科ス可キカ是ヨリ此二問題ニ付テ説明スル所アラントス

第一問題 如何ナル方法ニ因リテ刑ノ輕重ヲ定ム可キヤ 本問題ヲ決スルハ甚タ容易ニシテ毫モ困難ヲ見ルコトナシ即チ刑ノ輕重ハ刑法ニ定メタル刑ノ順序ニ從テ之ヲ知ルコトヲ得刑ノ順序ハ刑法第七條乃至第九條ニ規定ス而シ

テ加減例第六十七條乃至第七十條ニ於テモ亦刑ノ輕重ヲ知ルコトヲ得即チ我刑法ノ原則ニ依レハ刑ノ輕重ヲ量定スルニハ(一)刑ノ性質ヲ以テシ(二)刑ノ長短ヲ以テス於此乎左ノ二結果ヲ生ス

第一結果 重罪ノ刑ハ其性質輕罪ノ刑ヨリ重シ故ニ重罪輕罪ノ俱發アリタルトキハ縱令輕罪ノ刑期ハ重罪ノ刑期ヨリ長キコトアリト雖モ刑ノ性質既ニ重罪ノ刑ヲ以テ重シト爲スカ故ニ重罪ノ刑ヲ以テ之ヲ處斷セサル可カラス例ヘハ門戶牆壁ヲ踰越損壞シテ竊盜ヲ爲シタル者再犯ニ係ルトキハ其最長期六年三個月ノ刑期ト爲ル此竊盜罪ト爲替手形偽造罪ト俱發シタルトキハ爲替手形偽造罪ノ短期ハ六年ノ輕懲役ニ過キス若シ竊盜ノ最長期ト手形偽造罪ノ最短期トヲ比較スレハ竊盜ノ刑ヲ以テ重シト爲ス然レトモ六年三個月ノ重禁錮ノ刑ヨリ六年ノ輕懲役ハ其性質重キモノナルカ故ニ此場合ニ於テハ爲替手形偽造罪ヲ以テ重罪ナリトシ之ニ科スルニ輕懲役ノ刑ヲ以テス可キナ

第二結果 同性質ノ刑ニ於テハ死刑ヲ除クノ外刑期ノ長キモノヲ以テ重シト爲スカ故ニ重罪ノ自由刑ニ在リテハ無期刑ヲ以テ最モ重キモノトシ之ニ次クモノヲ有期刑トス又之ニ次クモノヲ重懲役トス其最モ輕キモノヲ輕懲役トス以上ハ常事犯ノ場合ヲ想像シテ之ヲ論シタルナリ獨リ死刑ハ刑ノ最モ重キモノナルカ故ニ刑ノ輕重ヲ規定スルニ當リテハ宜シク死刑ヲ以テ最モ輕シト爲スハ規定ヲ設ク可キナリ然ルニ現行刑法ニ於テ刑ノ輕重ヲ比較ス可キ標準ヲ示スニ當リテ死刑ニ付テハ之ヲ度外視シテ而シテ單ニ自由刑ノミニ付キ輕重ノ標準ヲ定メタルハ未ダ以テ完全ナル規定ナリト謂フ可カラサルナリ第百條第二項ニ曰ク「重罪ノ刑ハ、長期刑ノ長キモノヲ以テ重シト爲シ、短期刑ノ等シキモノハ定役アルモノヲ以テ重シト爲ス」トアリ此規定ニ因リテ之ヲ觀レハ重罪ノ刑ハ刑期長キモノヲ以テ重シト爲ストアルヲ以テ死刑ハ寧ロ刑期ノ長キモノヨリモ輕キモノナリト看做シタリトノ反對ノ論結ヲ生スルニ至ル可シ固ヨリ死刑ノ自由刑ヨリ重キハ別ニ規定

ヲ用フルノ必要ナキカ如シト雖モ刑ノ標準ヲ規定スルニ當リテ死刑ノコトニ付テ一言ヲ爲ササリシハ法律ノ瑕瑾ナリト謂ハサル可カラ

ス  
輕罪ノ刑ハ其種類ニアリ禁錮及ヒ罰金即チ是ナリ而シテ刑期ノ長短アルモノハ獨リ禁錮ノ刑ノミトス隨テ輕罪ニ付テハ唯刑期ノ長短ノミヲ以テ刑ノ輕重ヲ定ムルコトヲ得ス若シ刑期ノ長短ノミニ因リテ以テ刑ノ輕重ヲ定ムルコトヲ爲サハ罰金ノ場合ニ於テハ到底其輕重ヲ知ル可ラザラントス於此乎刑法ハ輕罪ノ輕重ヲ量定スルニ付テハ其標準ヲ刑罰ニ採ラスシテ而シテ之ヲ犯罪ノ情狀ニ採レリ第百條第三項ニ曰ク「輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス」ト由是觀之輕罪ノ刑ハ其禁錮タルト罰金タルヲ問ハス犯罪ノ情狀重シトスルモノヲ以テ之ヲ處斷スルカ故ニ若シ罰金ノ刑ニ該ル犯罪ニシテ其情狀禁錮ノ刑ニ該ル犯罪ヨリモ重キトキハ罰金ノ刑ヲ科セサル可カラズ大審院ニ於テハ現ニ此解釋ヲ採レリ然レトモ凡ソ人生ノ自由ハ其貴

重ナルコト財産ニ比シテ零塊モ管ナラサルナリ何人モ財産ヲ捨テテ自由ヲ買ハンコトヲ求ムルモ自由ヲ棄テテ以テ財産ヲ獲ント欲スル者アルヲ聞カサルナリ去レハ自由刑タル禁錮ハ財産刑タル罰金ヨリ其性質ニ於テ重シト看做ササル可カラス故ニ禁錮ニ係ル罪ト罰金ニ係ル罪ト俱發シタル場合ニハ縱令禁錮ニ係ル罪ハ其情狀最モ輕クシテ僅ニ長短期十一日ノ刑ヲ科ス可キニ過キスシテ罰金ニ係ル罪ハ其情狀最モ重クシテ最高額二百圓ニ係ルモノナリトスルモ尙ホ禁錮ノ刑ヲ以テ重シト爲ササル可カラス刑法ハ單ニ輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最モ重キモノニ付テ處斷スト規定シテ而シテ罰金ノコトニ付テ一言ノ規定ヲ爲ササルハ是レ亦其瑕瑾タルヲ免レサルナリ刑期等シキ刑罰ニ係ル數罪俱發シタルトキハ如何ナル刑ヲ以テ最モ重キ刑ト爲スカ例ヘハ無期徒刑ト無期流刑ニ係ル二個ノ犯罪俱發シタルトキ又ハ重禁錮ト輕禁錮ニ係ル二個ノ犯罪俱發シタルトキハ何レノ刑ヲ以テ重シト爲スカ第百條第二項ハ之カ規定ヲ爲シテ曰ク刑期等シキモノ

ハ定役アルモノヲ以テ重シトナスト故ニ現行刑法ニ於テハ定役アル刑罰ヲ以テ最モ重キ刑罰ナリト看做スナリ然レトモ定役ハ必スシモ犯人ノ爲メニ苦痛ノ原因ヲ爲スモノニアラス却テ定役ニ從事スルカ爲メ獄中ノ憂苦ヲ慰スルコトアル可シ之ニ反シ定役ナキ刑罰ハ犯人ヲシテ常ニ無事ニ苦マシムルヲ以テ實際定役ナキノ刑ハ定役アルノ刑ヨリモ犯人ノ爲メニハ重大ナル痛苦ヲ與フルコトアリ想ハサル可カラサルナリ

重罪ニ付テハ定役ノ有無ニ因リ刑ノ輕重ヲ定メテ而シテ輕罪ニ付テハ別ニ此規定ヲ設ケス即チ輕罪ニ付テハ刑罰ニ因テ以テ其輕重ヲ較ル可カラサルモノアルヲ以テ犯罪ノ情狀ニ因テ以テ之カ輕重ヲ定メタルナリ第百條第三項ニ曰ク輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キモノニ從テ處斷スト輕罪ノ刑ノ最モ重キモノヲ以テ禁錮ト爲ス而シテ禁錮ニハ輕禁錮ト重禁錮ノ區別アルカ故ニ重罪ノ規定ヨリ第百條第二項之ヲ推測スレハ法律ノ精神定役アル重禁錮ヲ以テ重シトシ定役ナキ輕

禁錮ヲ以テ輕シト爲ササル可カラス隨テ刑罰ニ付テ刑ノ輕重ヲ定ムルコト尙ホ重罪ノ場合ノ如クスルヲ得可シ然ルニ刑法ハ重罪ニ付テハ定役ノ有無ニ由テ刑ノ輕重ヲ定ムルコトヲ爲シ而シテ輕重ニ付テハ此規定ヲ爲サザリシハ抑モ常理ニ反スル所ノ規定ニ非サルナキヲ得ン乎ハ余ハ輕罪ノ刑ニ付テモ重禁錮ニ係ルモノト輕禁錮ニ係ルモノト俱發シタルトキハ重禁錮ニ係ルモノヲ以テ重シト爲ストノ規定ヲ設クルノ道理アルヲ信スルナリ然レトモ重禁錮ノ刑ニ係ル數罪俱發シ又ハ輕禁錮ニ係ル數罪俱發シタルトキハ各本條ニ定ムル所ノ刑罰ハ容易ニ其輕重ヲ知ル可カラサルモノアルカ故ニ俄ニ刑期ノ長短ニ因リテ以テ刑ノ輕重ヲ定ムルコトヲ得ス例ヘハ竊盜罪ト官吏侮辱罪ト俱發シタルトキハ其ニ重禁錮ノ刑ニ係ル輕罪ナリ而シテ竊盜ノ刑ハ第三百十六條ニ於テ二月以上四年以下トス官吏侮辱罪ハ第四百十一條ニ於テ一月以上四年以下トス若シ竊盜ノ最モ重キモノト官吏侮辱罪ノ最モ輕キモノト併發シ又ハ竊盜ノ最モ輕キモノト官吏侮辱

罪ノ最モ重キモノト併發シタルトキハ竊盜罪重クシテ而シテ官吏侮辱罪輕シト謂ハサルヲ得ス然レトモ竊盜罪ノ最モ輕キモノト官吏侮辱罪ノ最モ重キモノト併發シタルトキハ到底刑法ノ規定ニ因テ其輕重ヲ知ルヲ得サルナリ竊盜ハ二月以下ノ重禁錮ニ處スルコトヲ得可ク而シテ官吏侮辱罪ハ一年以下ノ重禁錮ニ處セラル可シ如此セハ則チ官吏侮辱罪重クシテ而シテ竊盜ノ罪輕ク故ニ法律ハ犯罪ノ情狀ヲ斟酌シ其情狀ノ輕重ニ照シ科スル所ノ刑罰ヲ以テ之カ輕重ヲ定ム可シト爲シタルナリ

第二問 數罪俱發ノ場合ニ於テ一ノ重キ刑ヲ適用スルトキハ輕キ刑ノ附加刑ハ主刑ト共ニ吸收セララルヤ 本問題ヲ按スルニ凡ソ裁判官ハ唯法律ヲ適用スルノ職權ヲ有スルノミニシテ如何ナル場合ニ於テモ法律ヲ制定スルノ權利ヲ有スルモノニ非サルナリ數罪俱發ノ場合ニ於テ重キ刑ニ附加刑ナクシテ輕キ刑ニ附加刑アリタルトキ獨リ重キ刑ノミヲ科スルトキハ犯人ハ不當ニ輕キ刑ノ附加刑ヲ免ルルノ恐ナシトセス然レトモ主刑ニ附加スル附加刑ハ是レ

主刑ト附加刑トヲ科セテ不可分ノ一刑ヲ爲スモノナレハ裁判官ニ於テ没リニ  
主刑ト附加刑トヲ分離スルノ權利ヲ有スルモノニ非ス若シ裁判官ニ於テ輕  
キ刑ノ附加刑ノミヲ採リテ之ヲ重キ主刑ニ附加セントスルトキハ即チ裁判  
官ハ不可分ノ刑ヲ分離シテ一ノ刑罰ヲ制定スルモノナリ是レ裁判官ノ職務外  
ニ馳スルモノナリ輕キ刑ノ附加刑ハ犯人ニ於テ之ヲ免ルルヲ得ルハ其主刑ヲ  
免ルルノ結果ニ出ツルヲ以テ別ニ不當ニ附加刑ヲ免ルルモノナリト謂フヲ得  
ス

然レトモ沒收及ヒ徵價處分ニ付テハ前ト同一ニ論ス可カラサルモノアリ刑法  
第百三條ニ曰ク數罪俱ニ發シ一ノ重キニ從フト雖モ其沒收及ヒ徵價ノ處分ハ  
各本法ニ從フト由是觀之附加刑ハ原則上其主刑ト共ニ吸收セラル可キモノナ  
リト雖モ獨リ沒收及ヒ徵價處分ハ之ヲ併科スルヲ以テ原則ナリトス蓋シ附加  
刑中監視罰金ハ主刑ト一致シテ不可分ノ刑ヲ爲スヲ以テ裁判官ニ於テ自由ニ  
之ヲ分離併合スルノ權ヲ有セスト雖モ沒收及ヒ徵價處分ハ主刑ト一致シタル  
不可分ノ附加刑ニ非スシテ或犯罪ニ付テ特科スル所ノ獨立ノ附加刑ナレハ

裁判官ハ之ヲ科スルノ場合アレハ縱令主刑ニ於テ何等ノ附加刑ナシト雖モ獨  
リ沒收徵價ノ附加刑ヲ科スルコトヲ得ルナリ即チ沒收及ヒ徵價ノ附加刑ハ分  
離シテ重キ主刑ト併科スルコトヲ得ルノ性質ヲ有スル附加刑ナリ

數罪俱發ノ場合ニ於テ一ノ重キ刑ヲ科シ輕キ刑ニ對シテハ其刑ヲ科セスト雖  
モ是レ其輕キ犯罪ヲ以テ犯罪ニ非スト爲シ又其犯人ヲ以テ其責任ナキモノナ  
リト爲スニ非サルナリ若シ輕キ刑ハ犯罪ニ非ス其犯人ハ責任ナキモノトセハ  
其犯罪ニ特科ス可キ沒收及ヒ徵價ノ附加刑モ亦之ヲ科スルヲ得サルニ至ル可  
シ故ニ刑法ハ輕キ犯罪モ亦之ヲ犯罪ナリト斷スト雖モ唯之ニ科スル所ノ主刑  
ヲ免シ重キ刑ニ科スル刑ノ中ニ吸收セラルモノナリト看做スナリ

第二款 犯罪ニ關スル俱發例ノ適用

如何ナル種類ノ犯罪ニ對シテ數罪俱發ノ原則ヲ適用ス可キカ重罪輕罪ニ對シ  
テハ例外ナク此原則ヲ適用ス可シ是レ第百條ノ規定スル所ニシテ別ニ論スル  
所ナシ之ニ反シ違警罪ハ數罪各別ニ刑罰ヲ併科スルヲ以テ原則ナリトス第百  
一條ニ曰ク違警罪二罪以上俱ニ發シタルトキハ各其刑ヲ科スト元來併科主義



ハ之ヲ勵行スルトキハ輕微ノ犯罪ニ對シテ過重ノ刑罰ヲ科スルノ恐アルヲ以テ俱發例ヲ設ケタルニ至リタルナリ然ルニ獨リ違警罪ニ付テ數罪俱發ノ原則ヲ適用セサル所以ハ果シテ如何ナル理由ノアリテ存スルカ元來違警罪ノ刑ハ極メテ輕微ナルヲ以テ吸收主義ノ原則ニ因リ一ノ重キ刑ノミヲ科シテ他ノ輕キ刑ヲ科セサルトキハ犯人ハ屬テ違警罪ヲ犯シテ不當ノ利益ヲ獲ルノ場合之ナシトセス例ヘハ第四百二十八條第一號乃至第四號ノ犯罪ノ如キハ蓋シ其適例ナリ官署ヨリ價額ヲ定メタル物品ヲ販賣シタル者ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處セラル可シ若シ數回此罪ヲ犯シ十圓以上ノ利益ヲ獲テ而シテ最高額ノ科料一圓ヲ科スルニ止マルトキハ犯人ハ一圓ノ科料ニ甘ンシテ而シテ屬テ此罪ヲ犯スニ至ラン如何トナレハ十圓ヲ利シテ而シテ一圓ヲ失フモ尙ホ九圓ノ利得アレハナリ如此違警罪ニ付キ吸收主義ヲ採ルトキハ則チ到底禁制命令ノ勵行ヲ期スル可カラサルニ至ルヲ以テ刑法ハ違警罪ニ付テ併科主義ヲ採ルハ必スモ過重ノ刑罰ヲ科スルノ弊害ヲ生スルコトナシ即チ如何ナル場合ニ於テモ經驗上犯人ハ重罪ヨリモ重キ刑ヲ科セラルルノ恐ナク又資產ヲ倒破スルノ

幣害ヲ見タルコトナシ併科主義ハ唯違警罪ニ付テ之ヲ行フモノニシテ若シ重罪輕罪違警罪ノ三種ノ犯罪又ハ重罪ト違警罪若クハ輕罪ト違警罪ト併發スルトキハ一般ノ原則ニ依リ輕キ違警罪ノ刑ハ重キ重罪又ハ輕罪ノ刑ニ吸收セラレスルハ非サルナリ

第一注意 數罪俱發ノ原則ハ刑法發布以前ノ他ノ法律ニ規定シタル犯罪ニモ亦之ヲ適用スルコトヲ得ルヤ

刑法以外ノ犯罪ト雖モ刑法ニ於テ別段ノ規定ヲ設ケサル限りハ常ニ數罪俱發ノ原則ヲ適用スルコトヲ得可キ然レトモ刑法發布以前ノ犯罪ニ對シテハ刑法ハ既往ニ遡ルノ效力ヲ有セサルヲ以テ俱發例ノ原則ヲ適用スルコトヲ得ス

第二注意 或種類ノ犯罪ニ付テハ同時又ハ附帶シテ成立スル場合ニ於テ俱發例ノ原則ヲ適用スルコトヲ許サ、ル場合アリ例ヘハ刑法第三百八十一條強姦婦女ヲ強姦シタル場合第三百八十二條竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ムカ爲メニ臨時暴行脅迫ヲ爲シタル場合第三百三十四條懷胎ノ婦女タルコトヲ知りテ臨時暴行脅迫ヲ加ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル場合凡ソ此等ノ場合ニ於テ刑法ハ

數罪俱發ヲ適用スルヲ許サスシテ特ニ此數罪ヲ併合シテ一罪ト爲シ之ニ相等  
スル所ノ一罪ヲ科スルニ止マルナリ

### 第三節 數罪俱發ノ效力

#### 第一款 公訴權ニ關スル場合

(一) 數罪ハ其判決以前或ハ同時ニ發覺スルコトアリ或ハ別時ニ發覺スルコト  
アリ數罪ヲ同時ニ發覺セタルトキハ同時ニ之ヲ同一裁判所ニ於テ同時ニ之ヲ  
訴フルコトヲ得可シ數罪ヲ別時ニ發覺セタルトキ即チ既ニ一罪ノ訴アリテ未  
タ其判決確定セザル前更ニ他ノ罪ヲ訴フルトキモ亦尙ホ同一裁判所ニ於テ數  
罪ヲ併セ管轄スルヲ以テ原則ナリトス蓋シ併合審理ハ刑事訴訟法ノ原則トス  
ル所ノモノナレバ公訴ノ提起同時ニ在ルト又別時ニ在ルトニ因テ以テ此原則  
ノ適用ヲ異ニスルモノニ非サルナリ然レトモ刑法第百條ニ於テ二罪以上俱發  
シタルトキ云々トアルヲ以テ世人屬之カ誤解ヲ爲シ同時ニ數罪ヲ訴ヘタル  
トキニ非サレハ俱發例ノ原則ヲ適用シ又併合審理ノ原則ヲ適用スルモノニ非  
スト信スル者アリ論者ハ二罪以上俱ニ發スルト云フヲ以テ同時ニ發スルトノ

意味ナリト信ス然レトモ俱ニ發スルトハ同時ニ發スルハ意味ニ非スシテ其判  
決確定以前同時ニ同一裁判所ニ繫屬シタル場合ヲ謂フ故ニ犯罪ハ同時又ハ別  
時ニ發覺スルモ裁判所ニ繫屬スルノ時間シケレハ則チ數罪俱發ノ適用ヲ爲ス  
ニ於テ決シテ不可ナル所ナシ

(二) 一罪以上ニ付キ既ニ訴ヲ起シ判決ヲ經タル後更ニ其判決以前ニ犯シタル  
他ノ犯罪發覺シタルトキハ之ヲ餘罪ノ發覺ト謂フ是レ第百二條ニ規定スル所  
ナリ元來第百條ニ於テハ數罪ノ發覺同時又ハ別時ニ於テスルモ皆是レ一罪以  
上ニ付キ未タ判決ヲ經サル以前ノ犯罪ニ屬ス故ニ若シ一罪以上ニ付キ既ニ判  
決ヲ經タル後餘罪ノ發覺アリタルトキハ本條ヲ適用スルヲ得サルナリ是レ實  
ニ第百二條ノ必要アル所以ナリ

第百二條ニ於テハ數罪中ノ一罪以上ニ付テ既ニ判決ヲ經タル後其判決以前ノ  
犯罪ニ付テ更ニ公訴ノ起リタルトキハ既ニ判決ヲ經タル犯罪ト未タ判決ヲ  
經サル犯罪トノ關係ヲ定ムルニ在リ如此判決ノ前後ニ於テ數罪併發シタルト  
キハ前後ノ數罪ハ特別ニ罰ス可キカ將タ單ニ重キ一罪ニ付テ罰ス可キカ刑法

第二百二條ニ曰ク「一罪既ニ發シ既ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等キモノハ之ヲ論セス其重キモノハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ罪ニ通算ス」ト由是觀之判決後ニ餘罪發覺セタルトキハ其餘罪ト判決ヲ經タル罪トノ輕重ヲ較リ若シ餘罪輕キトキハ之ヲ罰セス餘罪重キトキハ更ニ之ヲ罰シテ前發ノ犯罪ニ科シタル刑ヲ通算シテ單ニ後發ノ刑ノ重キ部分ノ刑ノミヲ執行スルナリ左レハ此場合ニ於テモ刑法ハ第百條ノ原則ヲ貫徹セシメント欲マタルニ過キスト謂フモ敢テ不可ナル所ナシ蓋シ既ニ判決ヲ經タル罪ト未ダ判決ヲ經サル罪トヲ比較シテ其輕キモノハ之ヲ論セスト謂フハ數罪同時又ハ別時ニ併發シタルトキ唯其重キ罪ノミヲ論シテ輕キ罪ヲ論セサルト同一ノ精神ニ出ツルナリ又餘罪重キトキハ更ニ之ヲ罰シテ前發ノ刑ニ通算スルト謂フハ前發ノ罪ニ科シタル輕キ刑ト後發ノ罪ニ科シタル重キ刑トヲ合算シテ前發ノ輕キ刑ヲ控除セタル刑ヲ執行スルヲ謂フ即チ前發ノ刑ニ加フルニ後發ノ刑ノ重キ部分ヲ加ヘタルモノヲ執行スルノ謂ナレハ是レ又單ニ一ノ重キ刑ヲ執行スルニ外ナラスシテ第百條ノ原則ノ適用タルヲ失ハサルナリ例ヘハ前發ノ刑ハ

又右數個ノモノ其一ヲ詐レハ皆直チニ罪ヲ構成ス隨テ二個以上ヲ詐ルトキハ理論上數罪ヲ構成ス可キモノナルモ連續犯ノ觀念ト同一ニ便宜ノ爲メ一罪ト看做ス可キモノトス

屬籍身分氏名年齢職業ニ限ルカ故ニ此外ノモノ例ヘハ財産ノ有無又ハ特別ノ資格ニ關スルモノハ他罪ヲ構成スルハ格別本罪ヲ構成セス

第三ノ要素 文書又ハ言語ヲ以テ詐稱シタルコト 言語又ハ文書タルヲ要ス

故ニ形様等ヲ以テスルトキハ本罪ヲ構成セス

第四ノ要素 知テ之ヲ詐ルノ意思アルコト 知テ之ヲ詐ルノ意思アルヲ以テ足レリトス蓋シ取締法ニ關スルカ故ニソレ自身害ヲ意味スレハナリ

本問ニ關シ古來有名ナル一問題アリ曰ク犯罪人カ自己ノ犯蹟ヲ隱蔽センカ爲メ裁判所又ハ其他ノ官署ニ對シテ氏名ヲ詐稱シタルトキハ本罪ヲ構成ス可キヤ否ヤ是ナリ余ハ有罪ト確信ス反對論ヲ主張スル者ハ犯罪人ハ自己ノ罪狀ヲ自白スルノ義務ナシ又ハ辯護權アリト云フテ理由トスト雖モ法律ハ犯蹟ヲ蔽フカ爲メニ罪ヲ犯スコトヲ許サス否論者ノ語ヲ以テ正當ナリトセハ第百三十

九條及ヒ第二百九十六條ノ如キ尤モ不當ノ法制ト云ハサル可カラサレハナリ  
處分ニ付キ輕キ罰金刑ヲ科スルニ止マルハ單ニ行政上ノ取締ヲ害スルノミ  
シテ罪情輕微ナレハナリ

### 第二款 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章

#### 若クハ内外國ノ勳章ヲ僭用スル罪

本罪ハ第二百三十二條ノ所定ニ係リ其構成要素ハ前ト大差ナキカ故ニ特種ノ  
點ニ付テノミ説明ス可シ

一、官職位階 (イ)官トハ國家爲政ノ機關トシテ任官セラル可キ者ノ有ス可キ名  
稱大臣、次官、參事官、書記官、局ト云フカ如シ職トハ官ニ附着スル職務ノ名稱、文  
書課長、秘書課長、會計課長ト云フカ如シ (ロ)位階トハ從八位以上正一位マテノ  
階級ヲ云フ爵及ヒ勳ヲ包含セス

二、官ノ服飾徽章若クハ内外國ノ勳章 (イ)官ノ服飾徽章トハ官ニ屬スル人又ハ  
物タルコトヲ表示スルカ爲メ法令ニ依リ制定セラレタル規制其裝飾及ヒ紀  
章紋章等ヲ云フ (ロ)勳章トハ功績アル者ヲ賞スル爲メニ設ケタル徽章、内外國

ノ別アリ

三、僭用 資格ヲ冒シテ使用スルヲ云フ外國ノ勳章ハ允許ニ依テ始メテ佩用ノ  
資格ヲ具フルモノナルカ故ニ假令其贈與ヲ受タルモ允許ヲ得スシテ使用ス  
ルモノハ僭用タリ

四、詐稱僭用 其ニ公然ノ文字ナキカ故ニ公然タルコトヲ要セストノ議論ヲ費  
ス者アリ意味ヲ爲サス蓋シ詐稱僭用其ニ他人ヲ欺クカ爲メ他人ニ對シテ行  
ハル、モノニシテ詐稱ハンレ自身公然ヲ意味シ秘密ノ詐稱ハ想像スルコト  
ヲ得ス

### 第七節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

公選ノ投票ヲ偽造スル罪ハ第九節ニ規定スル所ニシテ第二百三十三條乃至第  
二百三十六條ヨリ成ル

公選トハ法律規則ヲ以テ規定セラレタル公職ニ從事ス可キ者例ヘハ國會、府縣  
會市町村會等ノ議員、市町村ノ吏員又ハ所得稅調查委員等ヲ選舉スルコトヲ謂  
ヒ投票トハ之ニ依テ選舉權ヲ行使シ以テ其意思ヲ發表スルモノヲ謂フ

第一 第二百三十三條ハ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル者ノ處分ヲ規定ス 法律ハ偽造トアリテ變造ヲ規定セザルカ故ニ變造ハ法ノ缺點トシテ無罪タリ其數ヲ増減スルトハ例ヘハ已ニ投入セラレタル投票ヲ竊取シ若クハ其投票ニ無効タル可キ記載ヲ爲シ依テ之ヲシテ無効ナラシメ又ハ締切以後ニ於テ私ニ投票ヲ追加スルカ如キヲ云フ

第二 第二百三十四條ハ賄賂ヲ授ケテ投票ヲ爲サシメ又ハ之ヲ受ケテ投票ヲ爲シタル者ノ處分ヲ規定ス、(一)賄賂トハ公平ニ執行ス可キ職務ニ關スル請託ヲ條件トシテ授受スル所ノ或利益ヲ云フ詳細ハ官吏收賄罪ノ說明ニ讓ル(二)法律ハ「賄賂ヲ以テ又ハ」之ヲ受ケテトアリテ已ニ受授シタルコトヲ要スルカ故ニ單ニ贈遺ヲ約セテ投票ヲ爲シ又ハ爲サシメタルトキハ特別罪ヲ構成スルニ格別本罪ヲ構成セス(三)法律ハ投票ヲ爲サシメ又ハ爲シタルコトヲ要スルカ故ニ已ニ賄賂ヲ受授シタルモ未タ投票ヲ爲サハルトキハ又本罪ヲ構成セス(四)投票ヲ爲ス者ハ勿論選舉者ナルカ故ニ賄賂ヲ受タル者ハ必ズ選舉者タルコトヲ要スト雖モ投票ヲ爲サシメタル者ハ何人タルコトヲ問ハサル

カ故ニ賄賂ヲ授タル者ハ必ズ被選舉人タルコトヲ要セス

第三 第二百三十五條ハ投票ヲ検査シ及ヒ其數ヲ計算スル者カ第二百三十三條ノ罪ヲ犯シタル場合ノ處分ヲ規定ス——身分ニ依ル加重刑ヲ規定シタルモノナリ之ヲ加重スルハ犯スニ易ク防クニ難キト同時ニ職務ニ附著シタル信用ニ違背スレハナリ

第四 第二百三十六條ハ投票ノ結果ヲ報告ス可キ調書ノ記載ヲ偽リタル者ノ處分ヲ規定ス——無形ノ文書偽造罪ヲ規定シタルモノナリ刑ノ更ニ重キヲ加フルハ其文書カ官文書ト同視ス可キ程ノモノナルノミナラス易犯難防ト背信ノ度前條ニ比シテ更ニ重キヲ加フルモノアレハナリ

以上刑法カ選舉ニ關スル罪ヲ規定スルコト甚タ粗ナリ宜シク明治二十二年法律第三號衆議院議員選舉法第八十九條乃至第五百條明治二十三年法律第四十號衆議院議員選舉法罰則補則明治二十三年法律第六號府縣會議員選舉規則第五十九條以下第六十七條明治二十三年法律第四十一號府縣會議員選舉ニ衆議院議員選舉法罰則補則ヲ適用スル規定明治三十二年勅令第三百七十七號府縣

會議員及郡會議員選舉ニ關スル罰則明治二十三年法律第三十九號市町村會議員選舉罰則等ヲ參照ス可シ

### 第五章 健康ヲ害スル罪

茲ニ所謂健康ヲ害スル罪トハ一般公衆ノ健康ニ關スル義ニシテ特定シタル一人ノ健康ヲ害スル罪ニ非ス一私人ノ健康ヲ害スルモノニ付テハ第三編別ニ規定アリ

此公衆ノ健康ニ關スル罪ハ下ノ六個トス曰ク阿片烟ニ關スル罪飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪傳染病豫防規則ニ關スル罪危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪私ニ醫業ヲ爲ス罪是ナリ

#### 第一節 阿片烟ニ關スル罪

聞ク阿片烟ヲ吸食スルトキハ神心恍惚シテ其快云フ可カラス而シテ一タヒ之ヲ吸食スレハ必ス慣習ヲ成シ遂ニ人ヲ廢スト然ラハ之ヲ吸食スルハ管ニ自ラ害スルノミナラス亦人ヲ殺シ延テ國家ヲ滅亡セシムルモノナリ人或ハ其刑酷

ニ失スト爲スモ余ハ却テ其刑ノ輕キヲ歎ス見ヨ蠻人將ニ吾ト圍障ヲ接セシトス豈危殆ナラスヤ

阿片烟ノ何物タルヤハ余之ヲ知ラス(知ラズンハ法ヲ適用スルヲ得ス宜シク裁判所警察署等之ヲ知ルノ必要アル可キ官衙ニ其見本ヲ備ヘ附ク可也)而シテ本罪ニ關スル規定ノ大部分ハ已ニ説明シタル所ニ依テ之ヲ知ルコトヲ得ルカ故ニ本罪ニ特別ナル點ノミヲ説明ス可シ

第一 第二百三十七條ハ阿片烟其モノヲ第二百三十八條ハ其器具ヲ輸入シ製造シ又ハ販賣シタル者ノ處分ヲ規定ス説明ヲ要セス

第二 第二百三十九條ハ情ヲ知テ二者ヲ輸入セシメタル稅關吏ノ處分ヲ規定ス知情トハ通常共謀セサル場合ニ用フルノ語ナレトモ本條ニ於テハ勿論トシテ之ヲ包含シ又單ニ知情トアルカ故ニ賦許モ之ヲ包含ス

第三 第二百四十條第一項ハ吸食ノ爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ノ處分ヲ規定シ第二項ハ引誘シテ吸食セシメタル者ノ處分ヲ規定ス(一)房屋ヲ給與シテ圖利スル者トハ清國所謂烟館ノ如キモノナラン其圖利セザルトキハ

單ニ第二百四十一條ノ從犯タルノミ(一)引誘ハ猶ホ誘導ノ如シ他人ヲ烟館ニ誘導シテ共ニ吸食スルノ類ヲ云フ故ニ單ニ吸食ヲ教唆スルノ所爲ハ第二百四十一條ノ教唆犯タルニ過キス固利セサルモ前者ト同一ニ處斷スル所以亦此ニ職由ス(三)其ニ從犯及ヒ教唆ノ或體様タリト雖モ特別ノ規定ナルカ故ニ獨立ノ犯罪トシテ他ノ適用ヲ試ミルコトヲ要ス

第四 第二百四十一條ハ之ヲ吸食シタル者ノ處分ヲ規定ス——説明ヲ要セス  
第五 第二百四十二條ハ阿片煙及ヒ其器具ヲ單ニ所有シ又ハ受寄シタル者ノ處分ヲ規定ス——(一)所有ト受寄ヲ別ツカ故ニ所有ハ自己ノ爲メニ所持スルコトヲ受寄ハ他人ノ依頼ヲ受ケ其爲メニ所持スルコトヲ云フ(二)之ヲ窃取セ又ハ拾得シタル場合ニ於テハ單ニ本條ノ罪ノミヲ構成スルヤ將タ窃盜及ヒ遺失物隱匿罪ヲモ同時ニ構成スルヤ阿片煙ハ所有權ノ目的タルコトヲ得サルモノナルカ故ニ本罪ノミヲ構成スト決セサル可カラス

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪

飲料ノ淨水ハ一人ニ屬スルモノト公衆ニ屬スルモノトアリ一般公衆ノ健康

ニ關スル犯罪ノ一種ナルカ故ニ茲ニ所謂飲料ノ淨水ハ後者ヲ云フ  
第二百四十三條ハ飲料ニ關スル水道池水井水等ニ泥土塵芥等ヲ投シ又ハ其水底ヲ攪亂シテ之ヲ汚穢シ因テ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル所爲ヲ規定セ  
第二百四十四條ハ劇藥毒藥等凡テ人ノ疾病ヲ醸ス可キ有害ノ物品ヲ淨水中ニ投入シ依テ水質ヲ不良ナラシメ又ハ腐敗セシメタル所爲ヲ規定ス別ニ説明ス可キコトナシ  
第二百四十四條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致セタル場合ニ於テ之ヲ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スル所以ハ人ノ身體ニ害ヲ生ス可キ所爲ヲ爲シタルヨリ當然發生シタル結果ニシテ恰モ人ヲ毆打シテ疾病死傷ニ致シタルト同一ナレハナリ但初ヨリ人ヲ殺スノ意思ヲ以テシタルトキハ純然タル殺人罪トノ數罪俱發トス

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪

本罪ハ第二百四十六條乃至第二百四十九條ヲ以テ規定セラル何レモ取締法違背ノ行爲ナルカ故ニ其刑罰極メテ輕微ナリト雖モ亦一種ノ輕罪タルカ故ニ上

陸運搬又ハ他所ニ出ス等皆有意ノ行爲ナルコトヲ要ス其他ハ明文瞭然更ニ說明スキ點ナシ但本節ノ規定ハ豫防規則ニ附隨シタルモノナルカ故ニ傳染病豫防ニ關スル諸般ノ特別法即チ明治十八年十一月第三十四號布告種痘規則明治二十九年三月法律第六十號獸疫豫防法明治三十年四月法律第三十六號傳染病豫防法明治三十二年二月法律第十九號海港檢疫法等ヲ參看ス可シ

#### 第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物商製造ノ

##### 規則ニ關スル罪

本罪ハ第二百五十條乃至第二百五十二條ヲ以テ規定セラルル危害ヲ生ス可キ物品ト健康ヲ害ス可キ物品トノ何物タルヤヲ明ニスルコトヲ要スルノミ他ハ說明ヲ要セス

危害品ト健康ヲ害ス可キ物品トノ區別如何——明文之ヲ明示セサルカ故ニ其區別稍明瞭ナラスト雖モ(一)他ノ特別法明治六年八月九日第二百九十二號布告明治十七年十二月二十七日布告第三十二號爆發物取締規則等ニ於ケル用例ニ依レハ危害若クハ危害品ナル文字ハ常ニ火藥其他ノ爆發物等一朝之ヲ過ツト

キハ一時ニ多數ノ人命ヲ傷害スルノ結果ヲ生ス可キ物品ニ關シテノミ使用セラル、ト(二)第二百五十條第一項ト第二項トハ其刑罰著シク相違シ其所謂危害品トハ重大ナル損害ヲ生ス可キ物タルコトヲ表示スルトニ依テ之ヲ觀レハ危害品トハ火藥其他ノ爆發物等凡テ之ヲ製造スルニ當リ一朝其過失アルトキハ一時ニ多數ノ人命ヲ物質的ニ破壞スルノ危險アル可キ物品ヲ云ヒ健康ヲ害ス可キ物品トハ之ヲ製造スルニ當リ著シク惡臭ヲ放チ又ハ空氣ヲ腐敗セシムル等其製造カ衛生ヲ害ス可キ物品ヲ云フモノト信ス製造カ危害ヲ生シ健康ヲ害ス可キ物品タルノ點ニ注意スルコトヲ要ス

#### 第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ

##### 販賣スル罪

本罪ハ第二百五十三條乃至第二百五十五條ヲ以テ規定セラルル左ノ二點ヲ説明スルヲ以テ足レリトス

第一 (一)人ノ健康ヲ害ス可キ物品——飲食物ニ關スルカ故ニ之ヲ服用スルトキハ人身ヲ傷害スルノ結果ヲ生ス可キ總テノ有害物例ヘハ奸商カ葡萄酒ノ



染料ニ用フル「ア」ニリン色素ノ如キモノヲ云フ

(二)毒藥劇藥——明治二十五年內務省令第二號ニ掲タル所ニ依テ其一班ヲ知ルト同時ニ法律ハ其數ヲ限定セザルカ故ニ右省令ノ外尙ホ毒藥劇藥ト稱シ得可キモノアルコトヲ忘却セザルヲ要ス

第二 第二百五十三條第二百五十四條何レトモ其刑罰金ニ止マルノ營利ノ爲メ他ヲ顧ミサルヨリ生シタルモノナルカ故ニシテ其因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シタル場合ニ於テモ尙ホ過失殺傷ノ條ニ照シテ處分スルニ過キサルハ偶然ニモ人ヲ害スルノ意思ナキカ故ナラン然レトモ是レ甚タ薄弱ナル理由タリ一方ニ於テ有害物タルコトヲ知テ之ヲ使用スルハソレ自身人ヲ害スルノ意思アリト云ハサル可カラサルノミナラス他ノ一方ニ於テ彼等奸商ハ實ニ職業ニ對スル信用ヲ害スルモノタリ宜ク嚴刑ヲ以テ之ヲ待ツ可シ

尙ホ第二百五十四條ニ付テハ明治二十三年三月法律第十號藥品營業並ニ藥品取締規則及ヒ明治三十年三月法律第二十七號阿片法等ヲ參看ス可シ

### 第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

醫ハ仁術ナリト雖モ人命ノ關スル所慎マシムル可カラズ故ニ法律ハ豫メ允許ヲ得タル者ニ非スシハ之ヲ業トスルコトヲ許サズ是レ本節ノ規定アル所トス

本罪ニ付テハ亦左ノ三點ヲ説明スルヲ以テ十分トス

第一 醫業ヲ爲シタル者——(一)疾病ヲ治療スルコト之ヲ醫ト謂フ二種アリ人類ニ關スルモノ獸類ニ關スルモノ是ナリ免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ニ付テハ明治二十三年法律第七十六號第十條ニ別ニ制裁アルカ故ニ茲ニ所謂醫業トハ人類ノ醫即チ醫師ノ爲ス可キコトノミヲ限リ内科外科産科齒科等ハ勿論入齒齒抜口中療治接骨等ノ術モ亦明治十八年內務省甲第七號達ニ依リ此中ニ入ル可シ然レトモ鍼灸術ハ明治十八年內務省甲第十號達ノ趣旨ニ依リ此中ニ入ラス産婆モ亦明治三十二年七月十八日勅令第三百四十五號ニ特別ノ規定アリテ此中ニ入ラサルモノタリ(二)治療ヲ爲スコトヲ要スルカ故ニ醫師ニ代テ患者ヲ診察シ以テ其病狀ヲ醫師ニ報告スル代診又ハ醫師ノ命令ヲ受ケテ藥劑ヲ配合スル藥劑師ノ如キ診察又ハ調藥ヲノミ爲ス者ハ

茲ニ所謂醫業ヲ爲スモノニ非ス三之ニ依テ生活スル所ノ業務通常之ヲ稱シ  
 テ業ト云フ茲ニ所謂醫業トハ醫術ヲ生業トスルノ義ナルカ曰ク文字上此ノ  
 如キモノアリト雖モ茲ニ所謂醫業トハ佛國法ノ規定ヲ摸倣シテ立案セラレ  
 タル慕氏佛文第一章按第二百八十九條ニ常ニ醫業ヲ行ヒタル者トアルノ意譯  
 ニシテ二回以上醫術ヲ慣行スルコトヲ意味スルモノナルカ故ニ假令醫ヲ生  
 業トスルモ未タ嘗テ一回モ人ノ疾病ヲ治療セサル者ハ醫業ヲ爲シタルモノ  
 ト云フヲ得サルト同時ニ假令之ヲ生業トセサルモ二回以上之ヲ行ヒ慣行ト  
 認ム可キ事實アルトキハ醫業ヲ爲シタルモノトス蓋シ此規定ヲ設ケタル趣  
 旨ハ官許ヲ得スルヲ私ニ醫ヲ開業スルコト即チ營業ヲ取締ラントニハ非ス  
 シテ屢ニ醫術ヲ行フノ危險ヲ防遏セントニ在レハナリ——數之ヲ行ヒタ  
 ル事即チ慣行シタリト認ム可キ狀況ニ達シタルコトヲ要スルカ故ニ二回又  
 ハ三回ニ及フト雖モ其間著シク時ヲ經又ハ場合ヲ異ニスル等慣行ト認ム可  
 カラサルモノハ罪ヲ構成セス然レトモ苟モ慣行ト認ム可キ事實アルトキハ  
 其治療ヲ受ケタル者ノ一人ナルト數人ナルト又ハ謝料ヲ受授シタルト否

ハ罪ノ構成ニ影響ヲ有セス

第二 治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者——治療ノ方法ハ多少ノ  
 注意ヲ施サハ之ヲ誤ラサルコトヲ得ルモノト有數ノ國手カ如何ナル注意ヲ  
 用フルモ尙ホ且避ク可カラサルモノトアリ茲ニ所謂治療ノ方法ヲ誤ルコト  
 前者ノ場合ニ限ルカ將タ後者ノ場合ヲモ尙ホ之ヲ含ムカ曰ク普通ノ場合即  
 チ官許ヲ得タル者ノ爲シタル行爲ニ係ルトキハ前者ノ場合ニノミ限リ責任  
 ヲ生ス可シト雖モ本場合ニ於テハ後者ノ場合ニ於テモ尙ホ責任ヲ生ス可ク  
 前後何レヲモ包含スルモノトス蓋シ普通ノ場合ト異ナリ危險ノ生ス可キ行  
 爲トシテ國法ノ禁止シタル行爲隨テ避ケサル可カラサル行爲ナルニモ拘ハ  
 ラス敢テ之ヲ犯シタルヨリ生シタルモノナルカ故ニ如何ナルモノト雖モ避  
 ク可カラサル結果ナリト云フヲ得サレハナリ

第六章 風俗ヲ害スル罪

風俗ヲ害スル罪トハ善良ナル風俗又ハ習慣ニ反スル罪換言スレハ社會的公徳  
 ヲ破壞スル罪ヲ云フ法律ハ此表題ノ下ニ於テ三種ノ犯罪ヲ規定セリ曰ク公然

猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ猥褻ノ物件ヲ陳列販賣スル罪賭博及ヒ富蔵ニ關スル罪  
信教ニ對スル罪是ナリ

四九二

### 第一節 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ猥褻ノ物 件ヲ陳列販賣スル罪

甲 公然猥褻ノ所行ヲ爲ス罪

本罪ヲ構成スルニハ下ノ要素ヲ具備スルコトヲ要ス(一)猥褻ノ所行タルコト(二)公  
然之ヲ爲シタルコト(三)公然之ヲ爲スノ意思アルコト是ナリ

第一ノ要素 猥褻ノ所行タルコト (一)猥褻トハ佛語所謂 *Indecent* ヲ反スルモノ  
ノ義ナルカ故ニ淫事ニ關シ見ルニ堪ヘサルコトヲ云フ其果シテ淫事ニ關シ  
見ルニ堪ヘサルコトナリヤ否ハ行爲ノ當時ニ於ケル一般ノ慣習ヲ標準トシ  
テ決ス可キ法律上ノ問題トス之ヲ事實ノ問題ナリト云フハ謬ナリ蓋シ事實  
ハ具體的物理上ノ現象ニ關シ法律ハ抽象的理想上ノ判斷ニ關スレハナリ故  
ニ昨ハ猥褻ト看做シタルモノ今ハ却テ普通トシ昨ハ普通ト看做シタルモノ  
ノ今ハ却テ猥褻トスルアリ蓋シ吾人ノ道義觀念ハ時ト場所トニ依テ變轉推

移スルモノナレハナリ(二)猥褻ノ所行トアリテ犯人ノ行動カ直接ニ猥褻ト評  
定セラル可キ性質ヲ有スルコトヲ要ス故ニ言語又ハ文書ヲ以テ猥褻ナル事  
項ヲ發表スルモ茲ニ所謂猥褻ノ所行ニ非ス(三)單ニ猥褻ノ所行タルコトヲ要  
スルノミニシテ其事不正タルコトヲ要セス故ニ夫婦間ノ行爲ト雖モ尙ホ本  
罪ノ所行タルコトヲ得可シ

第二ノ要素 公然之ヲ爲シタルコト

公然トハ幕氏佛文草案第二百九十二條

「公ノ場所又ハ公衆ノ目ニ觸ル可キ場所」義ナルカ故ニ道路公園等公衆ノ自  
由ニ往來ス可キ場所ハ勿論假令自宅ノ一室又ハ庭内ト雖モ現ニ道路等ヨリ  
公衆ノ目撃シ得可キ場所ニ於テスルモノハ皆公然トス其適用ノ一トシテ漸  
車漚船乗合馬車内等モ亦公ノ場所ナルカ故ニ其内ニ於テスルモノハ假令他  
人ノ現ニ之ヲ目撃スル者ナキモ亦茲ニ所謂公然タルヲ失ハス而シテ法律カ  
之ヲ要件トスル所以ハ公然之ヲ爲スニ於テハ一般ノ公德ヲ害スレハナリ  
第三ノ要素 公然之ヲ爲スノ意思アルコト 公然之ヲ爲スノ意思即チ公然タ  
ル場所又ハ他人ノ面前ナルコトヲ知テ之ヲ爲スノ意思アルコトヲ要ス故ニ

例へハ戸障子カ偶然倒レタル爲メ公衆ノ目ニ觸ル可キ状態ニ至リタルヲ知ラザリシ場合ノ如キハ本罪ヲ構成セス然レトモ尙モ具象的ニ淫事ニ關スル事柄タルコトヲ自覺シタルト同時ニ公然タル場所又ハ他人ノ面前タルコトヲ知テ之ヲ爲シタルノ事實アルトキハ直チニ本罪ヲ構成シ其事ノ果シテ猥褻ト形容ス可キモノタルヤ否ヤハ之ヲ知ルコトヲ要セス蓋シ前述ノ如ク猥褻ナルヤ否ヤハ事實ノ問題ニ非スシテ法律ノ問題ナレハナリ

乙 猥褻ノ物件ヲ公然陳列シ又ハ販賣シタル罪

本罪ハ第二百五十九條ノ規定セル所ニシテ前條ノ説明ニ依テ其大體ヲ了解シ得可キカ故ニ單ニ左ノ説明ニ止ム可シ

(一) 風俗ヲ害スル冊子圖書トハ猥褻ノ事項ヲ記載シタル文書圖書ニシテ畢竟猥褻ノ物品ノ一種トス

(二) 公然トハ陳列ト販賣トニ係ル陳列販賣共ニ公然タルコトヲ要ス故ニ例へハ惡意上竊ニ自己ノ所有品ヲ他人ニ賣渡シタルカ如キハ罪ヲ構成セス然レトモ商人カ自己ノ營業上ニ於テ賣買スルハ假令秘密ニスルモ營業ノレ自身

公然タル可キモノナルカ故ニ本罪ヲ構成ス

(三) 販賣シタル者ヲ罰シ公然買取リタル者ヲ罰セザルハ淫賣婦ノ相手方ト同シク罪責輕微ナルト政策トニ出ツ

(四) 法律ハ陳列ト販賣トノ二種ニ限ル故ニ此他ノ方法ニ出ツルモノ例へハ質貸贈與ノ如キハ假令公然ノモノト雖モ本罪ヲ構成セス

第二節 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

勢ヲ厭ヒ逸ヲ希フハ人生ノ常ナリ是ニ於テカ若シ一朝賭博富籤ノ類ヲ公許セシカ一部ノ國民ハ此カ爲メ生業ヲ抛テテ游惰ニ流レ國運ニ貧弱ニ陥ルノ恐アリ刑法之ヲ罰スル所以亦此ニ存ス夫ノ賭博富籤ハ合意ニ基キ自己ノ產ヲ以テ自ラ得又ハ失フノミ何人モ之ニ因テ害ヲ受クルコトナキヲ以テ之ヲ許スモ何ノ害スル所ト云フカ如キハ阿片ノ吸食ヲ許可ス可シト云フト同論探ルニ足ラス然レトモ法律カ之ヲ風俗ヲ害スル罪ノ中ニ列シタルハ草案カ之ヲ名ケテ風俗ヲ害スル罪ト云ヒタル所以ヲ解セス妄ニ其表題ヲ襲用シタルモノニシテ大ナル謬トス蓋シ草案按ハ佛國刑法ノ主義ト同シク賭博ハソレ自身犯罪ニ非ス

唯此カ爲メ公然家屋ヲ設ケ又ハ公衆ノ面前ニ於テ賭博ヲ爲スカ如キハ恰モ根  
 柢ノ行爲ヲ公ニスルト同シク一般ノ美風ヲ傷害スルカ故ニ罰セサル可カラズ  
 ト爲セシモノニシテ明文ノ如ク賭博罪其モノヲ犯罪トスル法條ト相容レサレ  
 ハナリ

### 第一款 賭博ニ關スル罪

法律ハ第二百六十條及ヒ第二百六十一條ニ於テ賭博ニ關スル三種ノ犯罪ヲ規  
 定セリ曰ク財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル罪賭博ノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル  
 罪賭場ヲ開帳シ又ハ博徒ヲ招結シタル罪是ナリ

#### 第一項 財物ヲ賭シテ博奕ヲ爲シタル罪

是レ第二百六十一條ノ所定ニ係ル余ハ之ヲ成立要素ト處分トニ分テ説明ス可  
 甲 成立要素 本罪ヲ構成スルニハ下ノ要素ヲ具備ス可シ(一)賭博ヲ爲シタル

コト(二)財物ヲ賭セタルコト(三)現ニ行ヒタルコト是ナリ

第一ノ要素 博奕ヲ爲シタルコト 博奕トハ何ソヤ人或ハ我母法タル佛國刑  
 法ノ註釋書ト慕氏ノ佛文草案トニ依リ二人以上ノ者カ合意ヲ以テ勝敗ヲ爭

フ可キ遊戲ヲ爲シ勝者ニ一定ノ金額又ハ有價物ヲ支拂フモノタル博戲ト或  
 事物ノ判斷ニ付キ意見ヲ異ニシタル者カ約シテ勝者ニ一定ノ金額又ハ有價  
 物ヲ支拂フモノタル賭事トヲ分チ慕氏佛文第一第二章案ニ「Jeu de hasard」  
 (偶然ノ博戲トアリテ「Hazard」賭事ヲ云ハサルカ故ニ法文所謂博奕ノ中ニハ賭事  
 ヲ包含セサルノミナラス博戲ノ中ニモ民法上訴權アルモノト否トアリテ訴  
 權アルモノハ罰セラル可キ理由ナキカ故ニ亦之ヲ包含セス而シテ殘餘ノ博  
 戲ニ付テモ專ラ偶然ノ事ニ因テ勝敗ヲ決スルモノト主トシテ偶然ノ事ニ因  
 テ勝敗ヲ決スルモノトアリテ法律ノ罰ス可キ博戲ハ勝敗ノ尤モ確實ナラザ  
 ルモノ隨テ尤モ危險ノ多キモノタラサル可カラサルカ故ニ法律所謂博奕ト  
 ハ前者ニ限り假令民法上訴權ナキモ碁將棋玉奕等ノ如キ多少人ノ技術ニ因  
 リテ勝敗ヲ決セラル可キモノハ之ヲ包含セスト説明スル者アリ  
 然レトモ我刑法ハ賭博ニ關スル凡テノ犯人ヲ嚴罰セントノ主義ヲ以テ規定  
 セラレタルモノニシテ佛國刑法及ヒ慕氏ノ草案ノ如ク極メテ寛大ナル主義  
 即チ可成的賭博ヲ罰セサルノ主義ヲ以テ規定セラレタルモノト大ニ其趣ヲ

異ニセルノミナラス所謂博奕ハ我國古ヨリ其規定アリテ現行刑法ノ明文ハ  
實ニ新律綱領雜犯律賭博ノ條ニ凡ソ財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス者ハ皆杖八十賭  
場ノ財物ハ官ニ入ル其賭房ヲ開張スル者ハ其列ニ與ラスト雖モ同罪云々若  
シ產業ナクシテ常ニ腰刀ヲ挾帶シ無賴ノ徒ヲ招結シ賭場ヲ開張シ四隣ニ橫  
行スル者ハ皆流一等云々トアルト毫末ノ異同アルコト無シ此カ母法タル清  
明唐等ノ諸律ヲ案スルニ

唐律 諸賭戲財物者各杖一百餘賭戲皆是例賭重者各依已分準盜論云々

之ヲ註スル者曰ク舉博爲例餘戲皆是謂舉博爲名總爲雜戲之例弓射既習武

藝雖賭物亦無名云々

明律 凡賭博財物者皆杖八十賭場錢物入官其開張賭房之人同罪止據見發爲

坐職官加一等若賭飲食者勿論

法律 凡賭博財物者皆杖八十所攤在場之財物入官其開張賭坊之人賭博不與同

罪始亦止據見發爲坐職官加一等若賭飲食者勿論

集解ノ註ニ曰ク博即古六博之博謂以游戲之具爾勝負而賭財物今擲骰圍牌

之類是也

其條例ニ一凡開鴉毬圍圍雞抗蟋蟀盆並賭博者照開賭博例治罪其該

管亦照開賭博之該管々員例議處トアリテ博ハ六博ノ博即チ局戲其將棋

十六ムサシノ類ナリ又孟子ニ奕秋通國之善奕者也トアリテ奕ハ圍碁ナリ

然ラハ唐律ノ古ヨリ所謂博戲ノ中射御六藝等ヲ獎勵スルカ爲メニスルモノ

即チ民法上訴權ヲ認ム可キモノハ之ヲ除外セリト雖モ圍碁又ハ將棋ハ法律

ノ以テ罪ヲ命スル所ノモノタリ此點ニ關スル論者ノ意見亦辯ヲ要セス

然ラハ賭事ハ如何亦所謂博奕ノ中ニ包含セラレヤ此點ニ關シ博奕ハ其文

字ノミヲ以テハ論者ノ所謂佛語「博」意味スルニ過キサルカ故ニ必スシモ論

者ノ説ヲ非難セスト雖モ熟ラ案スルニ博ト云ヒ奕ト云ヒ共ニ古者之ヲ創メ

タルノ當時ニ在テハ手段ト結果トノ間ニ於テ或簡單ナル快樂ヲ得ンカ爲メ

ノ娛樂ニ過キナリシカ同一ノ娛樂ハ漸ク倦怠ヲ來スヨリ更ニ一段ノ快樂ヲ添

ヘンカ爲メ多少ノ利益ヲ勝者ニ贈與スルノ法ヲ案出スルニ至リ而モ尙ホ未ダ

之ニ因リテ弊害ヲ見ルコト無カリシカ安逸ヲ希ヒ僥倖ヲ望ムハ人情ノ常ナル

ヨリ茲ニ主客其位置ヲ異ニシ先ニ目的タリシ者却テ手段ト爲リ手段却テ目的ト爲ルニ至リ人皆其產ヲ抛テテ之ニ趣クト同時ニ他ノ一方ニ於テハ骨牌若クハ骨子ノ如キ之ヲ使用スルノ間ニ於テハ何等ノ快事ナク専ラ輸贏ヲ決シ財ヲ得ルノ目的ニノミ使用セラル可キ物件ヲ案出セシヨリ法ハ遂ニ之ヲ制セサル可ラサルニ至リシナリ然ラハ法ノ因テ作ラレタル所以其依テ罰セントスル所ノ者ハ遊戲ニ非ス勝敗ニ非ス勝敗ニ因テ生スル所ノ損失又ハ利益ニ在リ是ニ於テカ更ニ眼ヲ轉シテ賭事ノ何者タルヤヲ見ルニ博戲ハ多少快樂ト爲ル可キ遊戲隨テ或有形ノ能力即チ技術ヲ開ハスニ因リテ勝敗ヲ生スルモ賭事ハ自己有形ノ技能ニ依ルニ非ス専ラ自己ニ關セサル偶爾ノ出來事ノ上ニ無形ノ能力即チ意見ヲ圖ハスニ因リテ勝敗ヲ決スルモノニシテ其間僅ニ勝敗ヲ決ス可キ手段ヲ異ニスルニ過キス之ヲ法ノ博戲ヲ罰セサル可ラサル所以ノ理由ニ照ラスニ其間何等軒輊ス可キノ點アルコトナシ(論者或ハ賭事ハ遊戲ノ方法ニ依ラサルカ故ニ生業ヲ抛テテ日夜之ニ感溺スルノ危險ナシト云フト雖モ夫ノ連日角力又ハ競馬會ニ出席シテ賭事ヲ爲ス者ノ如

國物品タルモノハ其所有者ノ國籍ニ由ルモノアリ時トシテハ其所有者ノ住居地ニ由リ又時トシテハ其物品ノ差立地ニ由リ又ハ其物品保管ニ由リテ決スヘク所有者ノ敵國人民ナルトキハ其物品ノ敵國物タルハ論ナク敵國又ハ占領地ノ產物ニシテ其土地所有者ノ手ニ在ル間ハ物品ノ所有權ヲ有スルモノハ中立國人タリト雖モ亦敵國財產ト看做サレ商品ノ航海中ニ在ルモノハ戰爭中敵國人ノ之ヲ第三國人ニ賣買スルヲ許サス又開戦ノ豫想ニテ捕獲ヲ避クル爲メノ賣買ヲ無効トシ平時ニ於テハ一般ノ法則トシテ積荷ヲ海上ニ送り出ストキハ受取人ノモノト看做サレ特約アルニ於テハ其手ニ到達スル迄ハ荷主ノ所有ト爲シ得ヘキモ戰時ニ於テハ斯ル特約ヲ認メスシテ受取人ノ敵國人民ナルトキハ敵國財產ト看做シ之ニ反シテ受取人ノ中立國人又ハ自國人ナルトキハ真正ノ所有者ハ差立人タル敵國人ニ非サルコトヲ證明セサルヘカラス又中立國ノ財產ト雖モ敵國武裝ノ船舶中ニ在ルモノハ中立國財產ノ性質ヲ失ヒ敵國財產トシテ沒收セラレ敵國軍艦ノ保護ノ下ニ在ルモノモ亦中立ノ特權ヲ有スルコト能ハス茲ニ近世敵國船舶中ノ敵國物品ハ悉ク捕獲セラルヘキ法則ノ

例外ト看做サレタルノ例ハ千八百十二年英米戰爭中伊國ヨリ米國フイラデル  
 フィア美術館ニ送附セル圖書及印刷物ヲ英國ノ拿捕シタルニ法廷ハ之ヲ捕獲  
 スヘカラストシ美術及ヒ學藝ニ關スルモノハ人類一般ノモノニシテ戰爭ノ行  
 爲ヲ之ニ及ホスヘカラストノ理由ニ依リ同美術館ニ返還セリ此判決タル歴史  
 上並ニ理論上ニ於テモ批評ヲ免カレサル所ナレトモ之ヲ正當トスル學者夥シ  
 タ方今諸國ノ捕獲審檢所モ之ト同一ノ處置ヲ爲スニ至リ其外病院ノ器具モ假  
 令今日ニ於テハ未タ免除ノ完全ナラサルモ既ニゼネバ條約附屬條約ニ規定ス  
 ル所ナレハ今後ノ海上戰爭ニ於テハ其捕獲ヲ免セラルヘタ少クトモ其使用ノ  
 間ハ之ヲ捕獲沒收セラルヘキニ非サルカ如シ

### 第二節 賠償證書及ヒ再捕獲

交戰國ノ私有船舶カ敵國船舶ノ爲メニ拿捕セラレタル場合ニ於テ船長ハ拿捕  
 者ニ賠償證書ヲ出シ一定ノ時日間ニ一定ノ金錢ヲ出スノ約定ヲ爲セテ其捕獲  
 ヲ免レ本國ニ歸航ノ途次並ニ歸航ノ時日ヲ定メテ開放セラレ得ルハ國際公法  
 上認め來リタル慣例ニシテ斯ル場合ニ於テハ其約定ノ航路ニ據リ本國ニ歸航

スルニ當リテ決シテ捕獲セラルルコトナク賠償證書ノ原本ヲ船長ハ所持シテ  
 以テ通行券ノ代用ト爲ス然レトモ天候其他避クヘカラサル必要ニ迫リタルニ  
 非スシテ指定ノ航路ヲ變更シ若クハ歸航ノ時日ヲ遅延シタルトキハ敵國又  
 ハ其同盟國ノ軍艦ハ之ヲ拿捕シ得ヘク此場合ニ於テハ其船舶並ニ本國ノ搭載  
 品ハ悉ク沒收賣却セラレ其代金中ヨリシテ前拿捕者ハ賠償證書ノ金額ヲ得テ  
 後ノ拿捕者ハ殘餘ヲ取得スルモノトス而シテ賠償證書ヲ受ケタル拿捕者ニシ  
 テ若シ商船本國ノ軍艦ノ爲メニ拿捕ト爲リタルトキハ賠償證書モ無効ニ歸シ  
 人質ヲ與ヘアルトキハ其人質モ開放セラルヘキモノタリ賠償證書ハ戰爭中必  
 要ノ契約トシテ戰爭中ト雖モ法廷ニ於テ其履行ヲ起訴スルヲ得ルコトト爲シ  
 タル國多シト雖モ英國ニテハ戰爭繼續中ハ敵國人民ノ訴訟ハ一切受理セザ  
 ルニ由リ普通拿捕者ハ賠償證書ト共ニ人質ヲ取り置クヲ以テ其人質ノ自由ニ  
 付キ訴訟ヲ提出スルヲ許シ以テ賠償證書ノ義務ヲ戰爭中ト雖モ執行セシムル  
 ノ便法ヲ用ヒ來リタリシカ元來賠償證書ナルモノハ船舶ヲシテ全然拿捕ヲ免  
 レシムルニ非ス又拿捕者ノ拿捕セラルルトキハ證書モ共ニ無効ト爲ルカ如キ



其性質最モ不確定ヲ極メ敵國拿捕者タル個人ヲ利スルニ出ツルモノナルヲ以テ英國ハ百年前ヨリシテ之ヲ禁シ千八百六十四年更ニ海軍捕獲條例ニテ英國皇帝ハ事情ニ由リ賠償證書ヲ授受ヲ許スコトアルヘキ規定ヲ爲シタルモ實際之ヲ許スノ命令ヲ出シタルコトナク海軍士官ハ賠償證書ヲ受クルコトヲ禁セラル商船ハ之ヲ敵國拿捕者ニ出スコトヲ禁セラレ露國瑞典ノ扶和蘭國モ亦英國ニ倣ヒ賠償證書ノ授受ヲ禁スルニ至リタルモ佛國及ヒ米國ニ於テハ之ヲ禁シタルコトナシ斯ク賠償證書ヲ禁スルト否トハ國家ハ自國政略ニ由ルモノナレトモ國際公法上ニ於テハ之ヲ禁シテ不法ト爲スモノニ非ス

再捕獲トハ交戰國船舶ノ敵國ニ拿捕セラレタル後自國又ハ自國同盟國ノ爲メニ更ニ拿捕ニ由リ取戻サルルノ行爲ニシテ斯ル場合ニ於テハ其船舶ハ固ヨリ原所有者ノ手ニ恢復サルルモノトシ再捕獲者ハ其取戻ニ對スル救助料ヲ受クルモノトス茲ニ問題ノ生スルハ斯ル船舶ノ敵國捕獲ニ由リ其所有權ノ敵國ニ移リタル場合ニ於テハ原所有者ハ既ニ其所有權ヲ失ヒタルモノナルヲ以テ再捕獲者ハ之ヲ原所有者ニ引渡スノ義務ナキカ如ク此點ニ關シテハ諸國ノ規定

一定セス又其所有權ノ敵國ニ移轉スルノ時期ニ付テモ慣例互ニ異同アリテ千五百八十四年以來佛國政府ハ敵國ノ拿捕シタル後二十四時間内ニ再捕獲アリタルトキハ未タ所有權ノ敵國ニ移轉セサルモノト爲シ千八百六十六年和蘭國ハ敵國捕獲者ノ之ヲ賣却シタルトキモ其船舶ノ新ニ航海ヲ始ムル以前ニ再捕獲ニアリタルトキニ限り原所有者ニ恢復サルヘキモノト爲シ千八百九十三年合衆國ノ法令ニ於テハ拿捕物ノ敵國捕獲審檢所ニ於テ沒收サレサル以前ニ再捕獲アル場合ニ限り所有權ノ敵國ニ移ラサルモノトシ隨テ原所有者ニ恢復サルヘシト爲シ英國ハ千八百四十九年以來ノ慣習ヲ守リ殊ニ千八百六十四年捕獲條例ヲ以テ戰爭中敵國ヨリ其拿捕物ヲ取戻ストキハ再捕獲ノ時日如何ヲ問ハス凡テ原所有者ニ返還スヘキコトト爲セリ其他諸國ノ規定ハ英國ノ行爲ニ倣ヒタルモノ多シト雖モ此點ニ付テハ國際公法上一定ノ慣法ナク各國ノ内國法ニ由ルノ外ナク特ニ救助料ノ割合ノ如キハ諸國ノ國法ニ由リ一定セスシテ米國ハ再捕獲ニ係ル船舶物品ノ代價ニ對スル八分ノ一トシ佛國ハ二十四時間内ノ捕獲ハ三十分ノ一ニシテ其後ノ再捕獲ハ三分ノ一トシ英國ハ八分ノ一ノ

救助料ト爲スカ如ク諸國一定セス然レトモ方今諸國一定ノ法則トシテ異論ナキ所ノ慣法トシテ若シ敵國カ拿捕シタル自國船舶ヲ軍艦其他ノ官船トシテ使用シ居ルトキハ之ヲ再捕獲ト爲スモ決シテ原所有者ニ恢復サルヘキモノニ非スシテ再捕獲ヲ爲シタル國家ノ所有ニ歸シ又敵國カ若シ中立國ノ船舶ヲ捕獲シタル者ヲ再捕獲ニ由リ取得シタルトキハ未タ敵國捕獲審檢所ニ於テ沒收セサル以前ナルトキニ限り救助料ヲ拂フコトナク原所有者ニ恢復シ之ニ反シテ審檢所ニ於テ沒收シタル後ナルトキハ相當ノ救助料ヲ以テ原所有者ニ恢復セラルヘキモノトス

### 第三節 臨檢及ヒ搜查

戰爭中交戰國軍艦ノ自國又ハ敵國船舶ハ勿論第三國ノ私有船舶ニ對シテ其進行ヲ停止スルコトヲ命令シ之ニ臨檢及ヒ搜查ヲ行ヒ其船舶并ニ搭載品ノ果シテ捕獲スヘキモノナルヤ否ヤヲ檢査スルノ權利ヲ有スルハ古來ノ慣法ニシテ學者モ之ニ異論アルコトナク諸國ノ一般ニ承認スル所ノ法則トス而シテ此權利ハ單ニ戰爭中ニ限り平時ニ於テハ他國船舶ニ對シテ斯ル權利ヲ有スルコトナ

ク又戰爭中此權利ヲ行フモノハ交戰國ノ軍艦ニ限り其臨檢搜查ヲ受クヘキモノモ亦第三國ニ對シテハ其私有船舶ニ限り官船ニ及ホスコト能ハスシテ軍艦其他官船ニ對シテ之ヲ行ハントスルハ其國主權ニ對スル大ナル侮辱ニシテ不法トス而シテ交戰國軍艦ノ臨檢搜查ヲ爲スニ付テハ中立國ノ船舶モ之ニ服従スヘク抵抗スルニ於テハ其船舶及ヒ積荷ニ對シテ沒收其他ノ處罰ヲ受クヘク又其抵抗ノ爲メニ交戰國軍艦ニ損害ヲ來ストキハ自ラ國際問題ヲ惹起スルコトナキニ非ヌ之ニ反シテ敵國商船其他私有船舶ニ臨檢搜查ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其船舶ハ之ニ抵抗スルノ權利ナキニ非ヌ之ヲ抵抗ハ爲シ得ヘキモ其力足ラサルニ於テハ其處罰ノ苛酷ヲ受クヘキ危險ハ自ラ伴ハサルヲ得ス我國海軍捕獲規程第一條ニ於テモ帝國軍艦ハ敵國若クハ嫌疑アル船舶ノ進行ヲ止メ之ヲ拿捕スルコトヲ得トアリテ軍艦ハ私船ニ遇ヒタルトキハ信號旗又ハ豫備若クハ空砲ヲ發シテ其進行ノ停止ヲ命令シ若シ停止ヲ肯セス又ハ逃亡セントスルトキ或ハ抵抗シタルトキ若クハ敵國船舶ナルトキハ之ヲ拿捕シ得ヘク之ニ反シテ其進行ヲ停止スルトキハ軍艦ヨリシテ將校ヲ派シテ其船舶

ノ國籍及ヒ荷物ノ性質ヲ調査スルヲ臨檢ト云ヒ更ニ疑アルトキハ船舶ヲ搜索  
 検査スルヲ得之ヲ名ケテ搜查權ト云フ而シテ軍艦カスク臨檢搜查ヲ行フカ爲  
 メ船舶ニ接近スルハ其國旗ヲ偽リ又ハ國旗ヲ掲揚セシテ之ヲ爲マテ可ナリ  
 ト雖モ臨檢搜查ヲ行フニ際シテハ國旗ヲ掲揚セサルヘカラス又私船ニ停止ヲ  
 命シタル場合ニ於テ之ヲ背セサルトキハ空彈ヲ發砲シ又ハ實彈ヲ以テ其船體  
 ヲ横リ發射スルコトヲ得ヘク其他私船ヲ止メシムルニハ如何ナル信號ヲモ用  
 ヒ得ヘキモノタリ斯ル場合ニ於テ尙ホ命令ニ從ハサルトキハ兵力ヲモ用ヒ得  
 ヘキモノトス然レトモ臨檢搜查ヲ行フニ當リテハ相當ノ禮儀ヲ守リ成ル可ク  
 其船舶ノ航海並ニ内部ノ事務ニ妨害ヲ加フルコトハ避ケサルヘカラス而シテ  
 臨檢搜查ノ結果ニシテ其船舶又ハ積荷ニ嫌疑アルトキハ之ヲ最近ノ自國捕獲  
 審檢所ニ送致シ裁判セシムヘク其審判ニ由リ處罰セラルヘキモノハ沒收セラ  
 レ之ニ反シテ充分ノ疑アリタルモ捕獲ト爲ルヘキ證據不十分ナルトキハ放免  
 セラレ船舶ノ抑留航海遲延ニ伴フノ費用ハ船主ノ負擔ニ屬シ其拘留引致ニ  
 テ軍艦ノ專横ニ出テ拿捕ノ理由ノ存セサルトキハ軍艦本國ハ其損失ヲ負擔セ

ナルヘカラス

前述ノ法則ニ由リ交戰國モ安全ニ戰時ノ權利ヲ行ヒ得ヘク中立國ノ船舶モ亦  
 不當ナル拘留引致ヲ免ルヘキコトナレトモ近來中立國船舶ヲ保護セントノ  
 熱心ヨリシテ一層嚴ナル制限ヲ臨檢搜查ノ實行ニ加ヘント主張スル學者ナキ  
 ニ非ス「フアート」ヲ非ニノ如キハ臨檢士官ハ船舶ノ記錄書類以外ヲ臨檢スヘ  
 カラストシ「ブルト」ラン「ハ」其書類ニ詐僞ノ疑アルトキニ限り其以外ノ處分ヲ  
 爲シ得ヘントセルモ此等ノ説ハ現行國際公法ノ法則ニ非スシテ列國條約ヲ  
 以テスルニ非サレハ其説ヲ實行スルコト能ハス又學理上ニ於テモ荷モ交戰  
 國ニ於テ敵國私有財産又ハ戰時禁制品ヲ捕獲シ得ル權利ノ存在スル間ハ交  
 戰國ヲシテ臨檢搜查ノ權ヲ充分ニ行ハシメサルニ於テハ捕獲ノ法則モ自ラ實  
 用ヲ見ルコト能ハサルニ至ルヤ明ナリ故ニ我國海軍捕獲規程第十二條ニ於テ  
 モ臨檢搜查ノ方法ヲ詳細ニ規定シ艦長ハ船舶ノ拿捕スヘキ疑アル場合ニ限り  
 臨檢員ヲ指令シ臨檢ヲ行フモノトシ其船舶ノ進行中止ヲ命シ臨檢員ハ先ツ船  
 舶ノ書類ヲ點檢シ書類其他ノ點ニ於テ疑ナシト斷定スルトキハ直チニ放免シ

疑アリト思考スルトキハ船内ヲ搜查シ閉鎖シタル場所及ヒ器具ハ船長若クハ代理者ヲシテ開カシメ拒ムトキハ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ云ト規定シ第十三條ニ於テハ臨檢及ヒ搜查ニ依リ艦長若シ該船ニ嫌疑アリト思考シタルトキハ船長ヲシテ説明ヲ與フルノ便ヲ得セシメ船長説明ノ後猶ホ拿捕スヘキ證據アリト信スルトキハ該船舶ヲ拿捕スヘキモノトス拿捕スヘキ證據トハ第一船ノ性質艦裝及ヒ積荷第二該船ノ書類第三船長及ヒ水夫ノ證言等ヲ云フト規定セリ

#### 第四節 拿捕物ノ處分

交戰國軍艦ノ海上拿捕ヲ行ヒタルトキハ其船舶ハ屢々中立國又ハ敵國ニ屬スルモノナルヤヲ識別スルノ困難アリ又其積荷ハ交戰國ノ財産ト中立國ノ財産ト區別スヘカラサルモノアルノミナラス之ヲ混スルモノアルヲ以テ拿捕船舶ハ之ヲ自國港灣ノ捕獲審檢所ニ送り其審判ニ一任スルヲ正當ノ方法トシ我國捕獲規程第十條ニ於テモ艦長ハ拿捕シタル船舶ヲ捕獲審檢所最近ノ港ニ引致スヘシト規定セリ然レトモ此正式ノ方法ハ何レノ場合ニ於テモ之ヲ履行スル

ヲ必要トセスシテ時トシテハ拿捕物ヲ同盟國又ハ自國軍隊ノ占領地若クハ中立國ノ港内ニ送りテ裁判シ又ハ處分スルコトナキニ非ス而シテ中立國ハ交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率ヒテ其港内ニ入り來ルハ近世諸國ニ於テ之ヲ禁セントスル傾向アリト雖モ若シ交戰國雙方ニ對シテ偏頗ナク之ヲ許スハ國際公法上決シテ禁スル所ニ非ス斯ル場合ニ於テ強大ナル海軍ヲ有スル國ニ於テハ其港内ニテ拿捕物ヲ裁判シ之ヲ處分スルハ方今國際慣例上亦禁スル處ニ非ス其外大ナル必要ニ迫リタルトキハ軍艦ハ拿捕物ヲ捕獲審檢所ノ裁判ナクシテ賣却スルコトヲ得ヘク此場合ニ於テハ審檢所ノ裁判モ直ラニ其賣却ニ伴フテ爲ササルヘラスシテ我國捕獲規程第二十條ニ於テモ拿捕船舶若シ船體ニ破損等アリテ審檢所所在港迄進航ニ堪ヘサルトキ若クハ艦長ノ該船舶ヲ進航セシムルニ充分ナル下士卒ヲ乗込マシメ能ハサルトキ若クハ其積荷ノ腐敗等ノ虞アルトキハ艦長ハ該船舶ヲ最近ノ港ニ引致シ適宜ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルコトトセリ又拿捕物ヲ保存スルノ困難ニシテ特ニ危險ノ憂アルトキハ軍艦ハ之ヲ破壞シ得ヘキモノニシテ捕獲規程第二十二條ニ於テモ此權利ヲ規定シ又千

八百八十三年、チユレン國際法協會ノ決議ニ於テモ、拿捕物ハ其船舶ヲ海上波浪ニ由リ沈没セサラシムルコト困難ナルトキ又ハ其船舶ノ速力運クシテ巡洋艦ニ伴フ能ハサルニ由リ容易ニ敵國ノ爲メ取戻サルルノ虞アルトキ又ハ有力ノ敵艦ノ近キ來リテ之ヲ取戻サルルノ恐アルトキ並ニ其拿捕物ヲ安全ナル場所ニ送ルニハ需用品ノ欠乏シ若クハ其送り届クヘキ港ノ遠クシテ之ヲ安全ニ爲シ得ヘカラサルトキハ其拿捕物ヲ燒却又ハ沈没セシメ得ヘキコトトセリ

斯ク捕獲審檢所ノ裁判ナクシテ賣却若クハ破壞ヲ爲スハ其船舶及ヒ搭載品ノ全ク敵國ニ屬スルモノナルトキハ必要ノ場合ニ於テ之ヲ行ヒ得ヘキハ英佛ヲ始メ其他諸國ノ認ムル所ナリ米國ニ於テハ之ニ一步ヲ進メ獨立戰爭並ニ千八百十二年英米戰爭ニ於テ其海軍ニ訓令シ敵國ノ船舶其他財産ヲ拿捕スルトキハ悉ク破壊スヘキコトヲ命シ英國商業ヲ攻撃スルヲ目的トシ非常ニ價値アル物品又ハ同盟國ノ港ニ近キ場合ニ非サレハ之ヲ自國港灣ニ送付スルノ無益ノミナラス却テ有害ト爲シ巡洋艦一艘ニシテ拿捕船數艘ヲ保管引致シ得ルニ過キス而シテ其數ヲ加フル毎ニ巡洋艦ノ拿捕ヲ行フ力ヲ減却スルヲ以テ其搭載品

ヲ以テ軍艦ノ費用ニ充テ全カヲ繼續シテ破壊ヲ行フヘキコトヲ以テシタルニ由リ千八百十二年戰爭中ハ七十二艘ヲ破壊セリ此訓令タル破壊ヲ以テ通則トシ拿捕物ヲ保存シテ沒收スルヲ例外トシタルモノニシテ學者中其行爲ヲ批難ヒサルモノナキノミナラス諸國モ亦之ト同一ノ行爲ヲ爲シタルモノナク南北戰爭中南軍ハ北軍ノ商船ニ破壞ヲ行ヒタルモ其港灣ノ北軍ノ爲メニ封港セラレタルヲ以テ拿捕物ヲ送付スヘキ港灣ナキニ由リタルニ過キス又千八百七十年佛國軍艦ノ俘虜ヲ搭載シ居タルヲ以テ拿捕物ヲ引致スルコト能ハサルニ由リ中立國ノ財産ヲモ搭載シ居タルニ拘ハラズ獨逸國商船二艘ヲ破壊シ千八百七十七年露國ハ黑海ノ港ヲ土耳其軍艦ノ爲メニ封港サレタルニ由リ其拿捕船ヲ破壊シタルカ如キハ悉ク止ムヲ得サル場合ニ於テ破壊ヲ行ヒタルモノトス

總テ拿捕物ヲ破壊スルハ「ブレンチユリ」及ヒ「ウルセ」ナトハ絶對的必要ナキ場合ニ之ヲ行フハ國際法ノ違反ニシテ野蠻の行爲タルコトヲ唱フレトモ元來拿捕物ヲ保全スルハ交戰國ノ私利ト中立國財産ニ對スルノ好意ニ出ツル場合ニ外ナラスシテ交戰國ニ於テハ捕獲審檢所ヲ設ケテ其裁判ヲ經ルコトナレトモ

是レ全ク内國法ノ規定ニシテ國際公法ノ原則トシテ其裁判ヲ經タル後之ヲ賣却又ハ破壊スルモ又ハ其裁判ヲ經サルニ先テテ破壊スルモ何タル權利義務ノ差異ヲ生スヘキモノニ非ス隨テ敵國財産ヲ拿捕シタル場合ニ於テハ假令之ヲ破壊スルモ原所有者ニ於テ何タル批難ヲ爲スノ道理ナキコトナレハ國際公法上決シテ咎ムヘカラサルカ如シ隨テ其保管ノ困難又ハ不便ナル場合ニ於テハ破壊シ得ヘキハ今日諸國ノ慣法ニシテ決シテ妨ナク又近來中立國ニ於テ交戰國軍艦ノ拿捕物ヲ率ヒテ其港灣ニ入ルヲ禁スルノ傾向ノ進ムニ於テハ益々拿捕物ヲ破壊スルノ必要ヲ加フルニ至ルヘク而シテ其破壊ニ際シ中立國船舶又ハ物品アルトキハ固ヨリ之ニ對スル賠償ハ交戰國軍艦ノ本國ニ於テ爲スヘク又中立國ヨリシテモ其要求ヲ提起シ得ヘキモノトス

終ニ附言スヘキハ交戰國ニ於テ設置スル捕獲審檢所ノ組織ハ一ニ各國內國法ノ規定ニ由ルモノニシテ日清戰爭中ニ於テハ明治二十七年八月二十日勅令ニテ捕獲審檢令ヲ發布シテ其組織ヲ定メ捕獲審檢所及ヒ高等捕獲審檢所ヲ設ケテ佐世保及ヒ東京ニ之ヲ置ケリ而シテ捕獲審檢所ノ管轄裁判スヘキ事項ハ總テ戰爭自

國軍艦又ハ義勇艦隊ノ行ヒタル拿捕物ヲ審理裁判シ其拿捕ハ海軍單獨ニテ海上ニ於テ行ヒタルモノト陸上ニ於テ行ヒタルモノト又陸軍ト共ニ力ヲ協セテ敵國港灣ニ於テ拿捕シタルモノトヲ問ハス悉ク其裁判ヲ爲シ戰爭ヲ豫期シテ爲シタル拿捕物ヲモ審理シ再捕獲賠償證書并ニ捕獲ニ關シテ運賃賠償等一切ノ事項ヲ審判スルモノニシテ一般ニ云ハハ中立國ノ裁判所ニ於テハ交戰國ノ拿捕ニ關シテハ假令ヒ自國船舶ニ關スルコトヲモ裁判スルノ權ナシトス然レトモ若シ交戰國ノ拿捕ニシテ中立國ノ領海ニ於テ行ハレ又ハ中立國ノ領内ニ於テ交戰國ノ戰爭準備ヲ爲シ艦裝ヲ爲シタル船舶ニシテ拿捕ヲ行ヒタルトキハ固ヨリ中立國ノ權利ヲ侵害セタルモノナルニ由リ斯ル船舶ノ拿捕物ヲ率ヒテ其領内ニ入ルトキハ中立國裁判所ハ其拿捕物ニ付キ審理裁判スルノ權利ヲ有スルモノトス又捕獲審檢所ノ裁判手續ニ付テハ同シク其國內國法ノ規定ニ由リ諸國同シカラサルモ茲ニ研究スルノ必要ナシトス

## 第七章 交戰ニ關スル方法

### 第一節 總則

戰時國際公法







# ● 稟 告

校外生修業證書ハ目下調製中ニ付キ出來次第送付スヘシ

校外生名簿ニ登錄ヲ請求スル者ハ、原籍、現住所、族籍、氏名、生年月等ヲ記載シ、登錄料金五拾錢ヲ添ヘテ申出ラルヘシ

右ノ手續ヲ經テ校外生名簿ニ登錄セラレタル者ハ、校友ニ準シ、三十三年度講義錄ヲ特價各郡金三拾五錢全部金九拾錢ヲ以テ購讀スルコトヲ得

明治三十三年二月廿六日印刷

明治三十三年二月廿七日發行

東京市四谷區四谷仲町三丁目六番地

發行所 小田 幹 治 郎

印刷者 金子 輝 五 郎

印刷所 金子 活 版 所

發行所 司法省

指 定 和 佛 法 律 學 校

所 在 (東京市麴町區富士見) 町六丁目十六番地

電話 (一番町) 百七十四番

明治廿二年十二月九日內務省許可